

ユーザーズ・マニュアル

_KEYLAB MKII

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric BRUN

Philippe CAVENEL

Nicolas DUBOIS

プログラミング

Sebastien COLIN

Olivier DELHOMME

インダストリアライゼーション

Luc WALRAWENS

デザイン

Glen DARCEY

Guy PERCHARD

Pierre PFISTER

Axel HARTMANN

Morgan PERRIER

Sébastien ROCHARD

テストイング

Matthieu BOSSHARDT

Florian MARIN

Benjamin RENARD

Matthieu COUROUBLE

Germain MARZIN

マニュアル

Randall LEE (author)

Vincent LE HEN

Jose RENDON

Jack VAN

Stephan VANKOV (author)

Jimmy MICHON

Gala KHALIFE

Minoru KOIKE

Charlotte METAIS

Holger STEINBRINK

© ARTURIA SA – 2021 – All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann

38330 Montbonnot-Saint-Martin

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについてArturiaは何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に関する諸条件により、本マニュアルで説明されているハードウェアとソフトウェアを供給します。許諾契約は合法的な使用のみと条件を指定します。Arturia S.A.の明確な書面による許可なく本マニュアルの一部、または全部をコピー配布することはできません。

本マニュアルに記載の他の製品、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標、または登録商標です。

Product version: 2.1

Revision date: 30 March 2021

KeyLab MkIIをお買い上げいただきありがとうございます！

本マニュアルでは豊富な機能を内蔵したパワフルなキーボードコントローラーArturia **KeyLab MkII**の各種機能と操作方法をご紹介します。

パッケージ内容：

- KeyLab MkII本体
- USBケーブル
- アンチグラウンドループアダプター
- DAWコマンドオーバーレイパネル
- クイックスタートガイド このガイドにはKeyLab MkIIを使い始める際に役立つシンプルな操作手順や**本機の製品登録**と以下の付属ソフトウェアのアクティベートに必要なコードが記載されています：
 - Analog Lab
 - Ableton Live Lite
 - Piano V2

できるだけ早く製品登録をお済ませください！ 本機の本体底面にシリアルナンバーとアンロックコードが記載されたステッカーが貼ってあります。これらは、本機を**オンラインで製品登録**される際に必要となります。本機を破損してしまい、修理等が必要となった場合などに備えて、これらの情報をメモしておくか、写真に撮っておくことをお勧めします。

製品登録をされますと、次のようなメリットがあります：

- Analog Labソフトウェアがアクティベートでき、6,000種類以上のプリセット音色を使用できます。
- KeyLab MkIIオーナー限定の特別オファーを受け取ることができます。

使用上のご注意

仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために本機の仕様を予告なく変更することがあります。

重要：

本機とその関連ソフトウェアは、本機をアンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意：

知識不足による、誤った操作により発生した問題に対するサポートは、保証対象外となり料金が発生します。サポートのご依頼をされる前に、本マニュアルを熟読し、販売店にご相談ください。

注意事項としては以下の通りですが、これらに限定されるものではありません：

1. 本マニュアルをよくお読みになり、ご理解いただいた上でご使用ください。
2. 本機の使用方法に従ってご使用ください。
3. 本機のお手入れをする場合は、最初に電源アダプターやUSBケーブルなどすべてのケーブル類を取り外してください。また、清掃は乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやアルコール、アセトン、テレピン油など有機溶剤を含むものは使用しないでください。液体クリーナーやスプレー洗剤、濡れた布も使用しないでください。
4. 本機を浴室やキッチンシンク、プールなど水がある場所の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
5. 本機を落下する恐れのあるような不安定な場所に設置しないでください。
6. 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機を過熱から保護する開口部や通気孔を塞がないでください。本機を暖房等の熱源の近くや風通しの悪い場所に設置しないでください。
7. 本機を開けたり、本体内に異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあります。
8. 本機に液体をこぼさないでください。
9. 修理の際は必ず正規のサービスセンターにご相談ください。お客様ご自身で本体を開けたりされますと、保証対象外となります。また、不正な改造や調整は感電を起こしたり、故障の原因になります。
10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。距離が離れていても過電流等で本機が破損することがあります。
11. 本機を直射日光下に設置したり使用しないでください。
12. ガス漏れが発生している付近で本機を使用しないでください。
13. Arturiaおよび正規代理店は、本機の不適当な操作等が原因による破損やデータ損失につきましても責任を負いません。

はじめに

この度はArturia KeyLab MkIIをお買い上げいただき誠にありがとうございます！

KeyLab MkIIはあらゆるソフトウェアインストゥルメントやDAWと組み合わせて使用できるMIDIコントローラーキーボードです。コンピュータの操作に煩わされることなく、音楽制作に集中でき、作業効率を向上できるように設計されています。また本機は、21種類のインストゥルメントにより作成された6,000種類以上のプリセットを内蔵したArturia Analog Labソフトウェアとシームレスに統合された状態で使用することができます。

本機の主な特長：

- あらゆるMIDIソフトウェア、プラグイン、ハードウェアと使用可能
- CVインプットと4系統のアウトプット (CV, Gate, Mod 1, Mod 2) を装備し、モジュラーシンセサイザーとの統合が可能
- 主要なDAWほとんどに対応したトラック/トランスポート・コントロール機能を内蔵
- 欲しいサウンドを素早く見つけられるAnalog Labプリセットの高速ソート機能
- ベロシティ&アフタータッチ対応の49鍵または61鍵セミウェイテッド鍵盤を搭載
- ベロシティ&アフタータッチ対応の88鍵ハンマーアクション鍵盤を搭載
- ピッチベンド、モジュレーションホイールを装備
- MIDIアサイナブルノブ、フェーダー、RGBボタンを各9個x3バンクずつ装備し、Analog Labの操作に対応
- RGBマルチカラーバックライトのベロシティ&プレッシャー対応のパッドを16個装備
- 豊富なプリセット (ユーザー設定可能) を内蔵したコードモード機能内蔵
- MIDI Control Centerソフトウェアにより、各操作子のパラメーターアサインや本機全体の環境設定が可能
- 32文字LCDスクリーンを装備
- 豊富な接続端子：MIDIイン/アウト、USB、サステインペダル、エクスプレッションペダル、その他のペダル (3系統)、CVイン、Pitch CVアウト、Gateアウト、Mod 1アウト、Mod 2アウト

最新のファームウェアやMIDI Control Centerのダウンロード、チュートリアルやFAQのチェックなど、Arturiaウェブサイト (www.arturia.com) もぜひアクセスしてください。本機が、素晴らしい音楽制作のお役に立てればと思います。

より豊かな音楽ライフを

The Arturia team

もくじ

1. 使い始める.....	4
1.1. KeyLab MkIIを接続する.....	4
1.2. フロントパネル (左側).....	5
1.3. フロントパネル (右側).....	6
1.4. リアパネル.....	7
1.4.1. 要注意ポイント：グラウンドループ.....	8
2. オーバービュー.....	9
2.1. キーボード.....	9
2.1.1. MIDIチャンネルを変更する.....	9
2.1.2. キーボードショートカット.....	9
2.2. ピッチ & モジュレーションホイール.....	10
2.3. オクターブ切替とトランスポーズ.....	11
2.3.1. オクターブ設定.....	11
2.3.2. トランスポーズ設定.....	11
2.3.3. トランスポーズの解除.....	12
2.4. コードボタン.....	12
2.5. パッドモードボタン & パッド.....	12
2.5.1. 3つのパッドモード.....	13
2.5.2. パッドにMIDIノートを割り当てる.....	13
2.6. Analog Lab/DAW/Userモード.....	14
2.7. DAW Commandsセクション.....	15
2.7.1.トラックコントロール / グローバルコントロール.....	15
2.7.2. 8種類のDAWプリセット.....	16
2.8. トランスポートコントロール.....	16
2.9. プリセットブラウザ & ディスプレイ.....	17
2.10. コントロールボタン.....	18
2.11. エンコーダー.....	18
2.12. フェーダー.....	19
2.13. フィルター/セレクトボタン.....	19
2.14. リアパネル.....	20
2.14.1. Controls/Pedals/CVイン.....	20
2.14.2. Pitch/Gate/Modアウト.....	20
2.15. その他の機能.....	21
2.15.1. グローバル設定.....	21
2.15.2. パニックメッセージの送信.....	22
2.15.3. ファクトリリセット.....	23
3. ANALOG LAB モード.....	24
3.1. Analog Labと接続する.....	24
3.2. パート/ライブ選択.....	26
3.3. プリセットをブラウズする.....	27
3.3.1. Filter buttons.....	27
3.3.2. CategoryとPresetボタン.....	28
3.3.3. フィルタリングを解除する.....	28
3.4. エンコーダーとフェーダー.....	29
3.4.1. エンコーダー.....	29
3.4.2. フェーダー.....	30
3.4.3. Liveボタン.....	30
3.5. マルチを構築する.....	31
3.5.1. シングルプリセットを選ぶ.....	31
3.5.2. Part 2を追加する.....	31
3.5.3. スプリットポイントを設定する.....	31
3.5.4. スプリットモードを解除する.....	32
4. DAWモード.....	33
4.1. DAWモードのオーバービュー.....	33
4.2. DAWプリセットの選択.....	33
4.2.1. DAWプリセットリスト.....	34
4.3.トラック/グローバルコントロール.....	34
4.3.1.トラックコントロール.....	35
4.3.2. グローバルコントロール.....	36
4.4. トランスポートコントロール.....	36

4.5. センターノブ：ジョグホイールとしての使用	37
4.6. チャンネル/バンク選択	37
4.7. トラックの選択	38
4.8. エンコーダーとフェーダー	39
4.8.1. DAWモードでのエンコーダー	39
4.8.2. DAWモードでのフェーダー	40
4.9. DAWプリセットコマンドチャート	40
4.9.1. スタンダードMCU	40
4.9.2. スタンダードHUI	41
4.9.3. Ableton Live	41
4.9.4. Logic Pro X	41
4.9.5. Pro Tools	42
4.9.6. Cubase	42
4.9.7. Studio One	42
4.9.8. Reaper	43
5. Userモード	44
5.1. 全体コンセプト	44
5.2. ユーザープリセットの選択	44
5.3. プレイモードでのディスプレイ	44
5.4. コントローラーバンクの選択	45
5.5. プログラムチェンジメッセージ	45
5.6. User Editモード	46
5.6.1. エディットしたいコントローラーの選択	46
5.6.2. User Editモードでのディスプレイ	46
5.6.3. キーボード	49
5.6.4. ホイール	51
5.6.5. パッド	52
5.6.6. DAW Command / Userボタン	52
5.6.7. 3バンク分のコントローラー	53
5.6.8. ペダル/CV端子	54
5.7. 機能固定のコントローラー	55
5.8. プリセットの保存	56
6. Chordモード	57
6.1. Chordモードのオーバービュー	57
6.1.1. コード演奏の3つの方法	58
6.1.2. 動作の仕組み	58
6.2. Chordモード：キーボード	59
6.2.1. Chordボタンでコードをセットする	59
6.3. パッド：2つのChordモード	59
6.3.1. Pad Chordモード：色々な使い方	60
6.3.2. パッド用コードのセット方法	60
6.3.3. コードトランスポーズモードの要点	61
7. CV / GATE / MODの接続	62
7.1. CVイン端子	62
7.1.1. パラメーター (User Editモード)	62
7.2. Pitch/Gate/Mod端子	63
7.2.1. Pitchアウト	63
7.2.2. Gateアウト	63
7.2.3. Mod 1	63
7.2.4. Mod 2	63
7.2.5. パラメーター (User Editモード)	64
8. MIDI Control Center	65
8.1. MIDI Control Centerとの接続	65
8.1.1. デバイスメモリー	65
8.1.2. ローカルテンプレート	66
8.2. MCCコントローラーマップ	66
8.3. ホイールのカスタマイズ	67
8.3.1. ピッチバンド	67
8.3.2. モジュレーション	67
8.4. ユーザーチャンネルの選択	67
8.5. パッドのカスタマイズ	67
8.5.1. Pad Off	67

8.5.2. Pad MIDI Note	68
8.5.3. Padスイッチコントロール	68
8.5.4. Padプログラムチェンジ	68
8.5.5. Padプリセットチェンジ	68
8.6. Userボタンのカスタマイズ	69
8.6.1. User button Off	69
8.6.2. Userボタンスイッチコントロール	69
8.6.3. Userボタンプログラムチェンジ	69
8.7. エンコーダーのカスタマイズ	70
8.7.1. Encoder Off	70
8.7.2. Encoder Control	71
8.7.3. エンコーダーRPN / NRPN	72
8.8. フェーダーのカスタマイズ	72
8.8.1. Fader Off	72
8.8.2. Fader Control	72
8.8.3. Fader RPN / NRPN	73
8.9. Selectボタンのカスタマイズ	73
8.9.1. SelectボタンOff	73
8.9.2. Selectボタンスイッチコントロール	73
8.9.3. SelectボタンRPN / NRPN	74
8.9.4. Selectボタンプログラムチェンジ	74
8.10. キーボードのカスタマイズ	75
8.11. CVインのカスタマイズ	76
8.11.1. Mod CV max voltage	76
8.11.2. Mod CV Mode menu	76
8.12. ペダルのカスタマイズ	76
8.12.1. Pedal Off	76
8.12.2. Pedal Control	77
8.12.3. Pedalスイッチコントロール	77
8.12.4. ペダルプログラムチェンジ	78
8.13. Pitchアウトのカスタマイズ	78
8.14. Gateアウトのカスタマイズ	78
8.15. Mod 1 / Mod 2アウトのカスタマイズ	79
8.16. Device Settingsタブ	79
8.16.1. グローバルパラメーターセクション	79
8.16.2. DAWセクション	80
8.16.3. Padsセクション	80
8.16.4. Keysセクション	80
8.16.5. MIDI Thruセクション	80
8.16.6. コンティニューアスペダル・キャリブレーション	81
8.17. ImportとExportボタン	81
8.18. ファームウェアアップデート	81
9. ソフトウェア・ライセンス契約	82
10. 規制関連情報	84

1. 使い始める

1.1. KeyLab MkIIを接続する

KeyLab MkIIを使い始める前に、Analog Labやその他の付属ソフトウェアをお使いのコンピュータにインストールすることをお勧めします。また、各ソフトウェアの製品登録とオーソライズも事前にお済ませください。これらの作業は[Arturiaウェブサイト](#)で行えます。

次に、KeyLab MkIIを付属のUSBケーブルでコンピュータに接続します。本機の電源はコンピュータから供給されます。

本機はUSBクラスコンプライアント機器ですので、専用ドライバはコンピュータとの接続時に自動的にインストールされます。電源投入後数秒で使用できる状態になります。

コンピュータと接続せず、本機から外部機器をコントロールする場合は、DC9～12V 1.0AのACアダプター(別売)をご使用ください。この場合の接続例は以下の通りです：

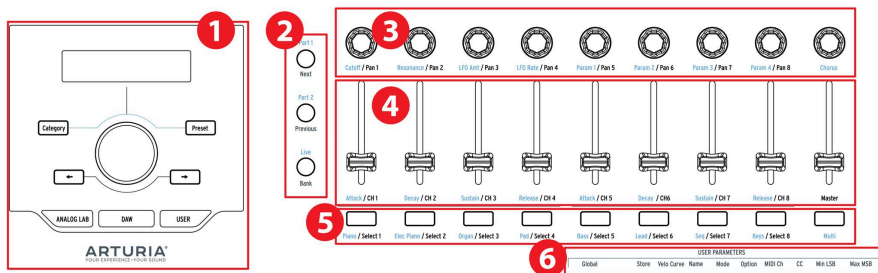
- **MIDI対応機器**：本機のみMIDIアウトと外部MIDI機器のMIDIインをMIDIケーブルで接続します。そこからデジチェーン的に他のMIDI機器へ接続することもできますが、接続する機器が多い場合はMIDIパッチベイが便利です。デジチェーンの場合、送受信するMIDIメッセージの量にもよりますが、各MIDI機器での信号遅延が積み重なって音楽的に影響が生じる場合もあります。MIDIパッチベイなら、このような問題を回避しやすくなります。
- **CV対応機器**：本機のCVイン/アウト、Gate/Mod 1/Mod 2アウトとモジュラーシンセサイザーを高品質の3.5mm TS (ミニジャック、モノ) ケーブルで接続します。

1.2. フロントパネル (左側)




1. **Octave, Chord & Transposeボタン**：オクターブ切替やトランスポーズ、コード機能のボタンです。
2. **Pitch & Modホイール**：ピッチベンドやモジュレーションかける時に使用します。
3. **Padモードボタン**：パッドの左側にある3つのボタンでパッドモードを切り替えます。Padボタンはユーザープリセットから設定を選ぶ時に使用します。その下の2つのボタンはコード機能のモードを切り替える時に使用します。
4. **パフォーマンスパッド**：DAW上のサンプルをパッドで演奏したり、ソフト/ハードインストゥルメントのコードを演奏したり、ポリフォニックアフタータッチなどあらゆる種類のMIDIメッセージの送信にも使用できます。各パッドはそれぞれのモードで個別に機能を設定できます。
5. **MIDIチャンネル選択キー**：MIDI Chボタンを押しながらキーボードの最低音から16個のキーを押してMIDIチャンネルを選択します。
6. **DAWコマンド/ユーザーセクション**：このセクションでDAW (レコーディングソフト) のソロやミュートなどのトラックコントロールを含む操作ができます。お使いのDAWが**プリセットリスト [p.34]**にある場合は、付属のオーバーレイが便利です。
7. **トランスポートコントロール**：DAWの一般的なトランスポートコントロール (録音、再生、ループ等) がこのセクションで行えます。トランスポートコントロールは本機のモード (Analog Lab, DAW, User) に関係なく常に使用できます。

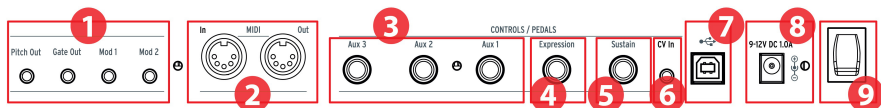
1.3. フロントパネル (右側)



1. **プリセットブラウザ&ディスプレイ:** このセクションはAnalog Labのプリセット選択のほか、メニューやパラメーター、プリセット情報が表示されます。
2. **コントロールボタン:** Analog Labモードの場合、Analog Labがマルチモードになっている場合のパートを切り替えたり、Liveタブの選択に使用します。DAWモードの場合は、DAWのトラックグループ切替に使用します。
3. **エンコーダー:** ソフトウェアインストゥルメントのパラメーター調節やDAW上の各トラックのパンニング調節に使用します。
4. **フェーダー:** ソフトウェアインストゥルメントのパラメーター調節やDAW上の各トラックの音量調節に使用します。
5. **フィルター/セレクトボタン:** Analog Labモードではプリセット選択時のフィルタリングに使用し、DAWモードではトラックの選択やコントロールに使用します。Userモードでは各ボタンに機能を割り当てることができます。
6. **ユーザーパラメーター:** 鍵盤の高音部1オクターブはUser Editモード [p.46]のショートカット [p.50]として使用できます。

 KeyLab MkIIのほとんどのコントロール類は、User Editモード [p.46]やMIDI Control Center [p.65]でMIDIコマンドをアサインできます。

1.4. リアパネル



1. **Pitch/Gate/Modアウト**：この4つのアウトは、本機からコントロール電圧 (CV) とトリガーを出力してモジュラーシンセサイザーなどCV機器をコントロールする時に使用します。各信号の電圧レンジは [User Editモード \[p.46\]](#)、または [MIDI Control Center \[p.65\]](#) で設定できます。
2. **MIDIイン/アウト**：MIDIコネクタは、本機をコンピュータとUSBで接続せずに外部MIDI機器をコントロールする時に使用します (この場合、別売のACアダプターで本機に電源を供給する必要があります)。MIDIインで受信した外部MIDI機器からのMIDIメッセージをUSBポートからDAWに出力することもできます。
3. **Aux 1/2/3ペダルイン**：この3つのペダル端子にはペダルやフットスイッチを接続して各種コントロールに利用できます。各インプットのMIDI CC (コントロールチェンジ) 割り当ては、[本機上 \[p.44\]](#) または [MIDI Control Center \[p.65\]](#) で設定できます。
4. **エクスプレッションペダルイン**：この端子にはペダルやフットスイッチを接続します。デフォルト設定ではMIDI CC#11を送信しますが、[本機上 \[p.44\]](#) または [MIDI Control Center \[p.65\]](#) で変更できます。
5. **サステインペダルイン**：この端子は、接続したペダルの極性を自動判別しますのでサステインタイプのペダルなら何でも接続できます。また、[本機上のフロントパネルの設定 \[p.44\]](#) または [MIDI Control Center \[p.65\]](#) での設定により、このインプットにエクスプレッションペダルなどのコンティニューアスタイプのペダルも接続できます。
6. **CVイン**：モジュラーシンセサイザーのCVアウトから本機にCVを入力する時にこの端子を使用します。このインプットはCV-to-MIDI / CV-to-USBコンバータとして使用できます。電圧レンジは本機のフロントパネルまたは [MIDI Control Center \[p.65\]](#) で設定できます。
7. **USBポート**：本機とコンピュータを接続する時に使用します。MIDIメッセージやコントロール情報の送受信のほか、本機の電源もコンピュータから供給されます。
8. **電源コネクタ**：本機をコンピュータと接続せずに使用する場合、このジャックにDC9~12V 1.0AのACアダプターを接続します。
9. **電源スイッチ**：USB動作の場合もACアダプター使用時もこのスイッチの動作は同じで、本機の電源オン/オフを切り替えます。スイッチが上でオン、下でオフです。

1.4.1. 要注意ポイント：グラウンドループ

2点間を電氣的に接続した時に、その間に不要な電流が生じることがあります。これがグラウンドループです。グラウンドループが発生するとオーディオ信号にノイズが生じ、通例では低音のハム音が混入します。コンピュータを使用するセッティングの場合、CV/Gate機器やオーディオ機器との間で接続で厄介なグラウンドループが発生することがあります。それを解消するのがアンチグラウンドループアダプターです。

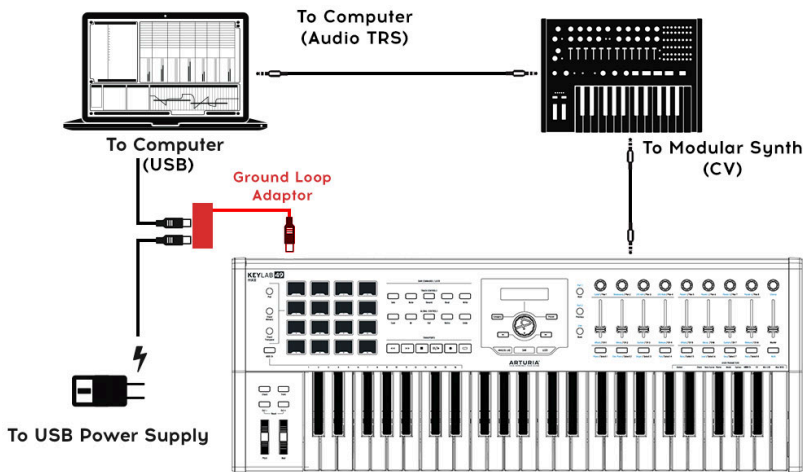
1.4.1.1. アンチグラウンドループアダプターを使うべきシチュエーションは？

ほとんどの場合、アンチグラウンドループアダプターは不要です。

グラウンドループが発生していない場合、本機とコンピュータを付属のUSBケーブルで接続したり、本機とDC9~12V 1.0AのACアダプター（別売）と接続するだけでOKです。

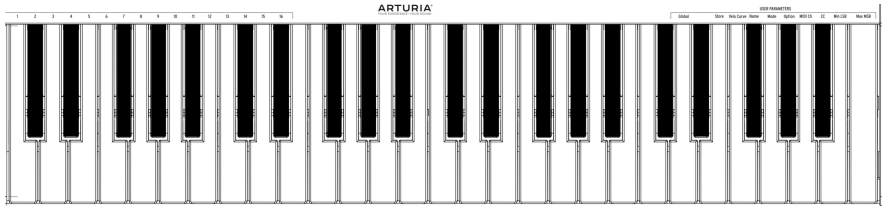
低音域のハム音が生じていて、本機のUSBポートからUSBケーブルを取り外したり、本機のCV/Gate端子からパッチケーブルを取り外すとハム音が消える場合、アンチグラウンドループアダプターが必要となります。グラウンドループが発生している場合、本機とCVで接続したアナログシンセサイザーのピッチトラッキングなどに悪影響を及ぼすことがあります。

アンチグラウンドループアダプターは下図のように接続します：



2. オーバービュー

2.1. キーボード



KeyLab MkIIはベロシティとプレッシャー対応のシンセアクションキーボードを搭載しています。88鍵バージョンはベロシティとプレッシャー（アフタータッチ）対応のハンマーアクションキーボードを搭載しています。キーボードは、Userモードでパラメーターにアクセスする[ショートカット \[p.9\]](#)としても使用できます。例えば、MIDI Chボタンを押しながらキーボードの最低音から16個のキーのうち1つを押すとユーザーMIDIチャンネルを変更できます（後述）。

2.1.1. MIDIチャンネルを変更する

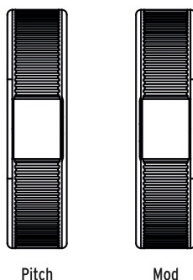
KeyLab MkIIのMIDIチャンネルは、MIDI Chボタンを押しながらキーボードの最低音から16個のキーのうち1つを押して変更します。この操作を行うと、本機のユーザーMIDIチャンネルが変更したチャンネルに切り替わります。

例えば、本機のMIDI出力チャンネルを8に変更するには、MIDI Chボタンを押しながらキーボードの一番低いGを押します。

2.1.2. キーボードショートカット

キーボードのうち、いくつかのキーはフロントパネルのボタンと併用することでユーザーMIDIチャンネルやグローバル設定、User Editモードのパラメーターへのショートカットキーになっています。ショートカットのリストは、[こちら \[p.50\]](#)をご参照ください。

2.2. ピッチ & モジュレーションホイール



この2つのコントローラーでピッチバンドやモジュレーションのリアルタイムコントロールができます。

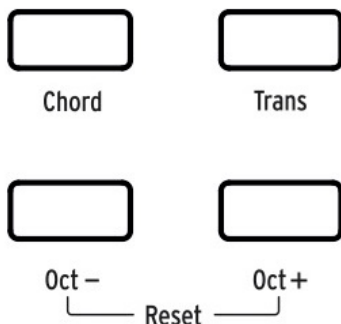
ピッチホイールを上下に動かすと、演奏中の音程が上下に変わります。ピッチバンドの可変幅は、接続しているハードウェアやソフトウェアインストゥルメント側で設定します。

モジュレーションホイールを上げると、選択した音色のモジュレーション量が上がってモジュレーションがかかります。モジュレーションの深さは、接続しているインストゥルメントの設定により変化します。本機のデフォルト設定では、モジュレーションホイールにはMIDI CC#1が割り当てられていますが、この設定は[フロントパネル上 \[p.44\]](#)または[MIDI Control Center \[p.65\]](#)で変更できます。



♪: ピッチホイールはMIDIピッチバンドメッセージ固定で、他のMIDIメッセージに変更できません。

2.3. オクターブ切替とトランスポーズ



2.3.1. オクターブ設定

Oct-またはOct+ボタンを押すと、本機のキーボードの音程が1オクターブずつ上下します。

オクターブ設定を変更すると、変更の度合いに合わせてオクターブボタンの点滅するスピードが変わります。1オクターブよりも2オクターブ変えた場合のほうが点滅するスピードが速くなります。この点滅は**本体上 [p.21]**か**MIDI Control Center [p.65]**でオフにできます。

Oct-とOct+ボタンを同時に押すと、オクターブ設定の変更が解除されて元のオクターブに戻ります。



♪: オクターブとトランスポーズ設定はユーザーマッププリセットに保存されます。

2.3.2. トランスポーズ設定

トランスポーズ機能は、キーボード全体の音程を半音単位で変更でき、曲を別のキーで演奏する場合などに便利です。

トランスポーズを設定するには、Transボタンを押しながら変更したいキーのルート音をキーボードで指定します。キーボードの中央Cよりも低いキーで指定すると音程が下がる方向に、中央Cよりも高いキーで指定すると音程が上がる方向にそれぞれトランスポーズします。また、キーボードのC (どのCでも構いません) を押すとトランスポーズが解除されます。

Transボタンが明るく点灯している場合、トランスポーズがかかった状態になっています。消灯している場合はトランスポーズが解除されています。

トランスポーズの設定は一時的にオン/オフすることができます。Transボタンが暗めに点灯している場合、トランスポーズ設定が一時的に解除されますが、トランスポーズ設定自体はメモリーされています。この状態でTransボタンをもう一度押すとトランスポーズ設定が復活します。



♪: トランスポーズは上下11半音の範囲で設定できます。それ以上に大きくトランスポーズさせたい場合はオクターブ設定と併用してください。

2.3.3. トランスポーズの解除

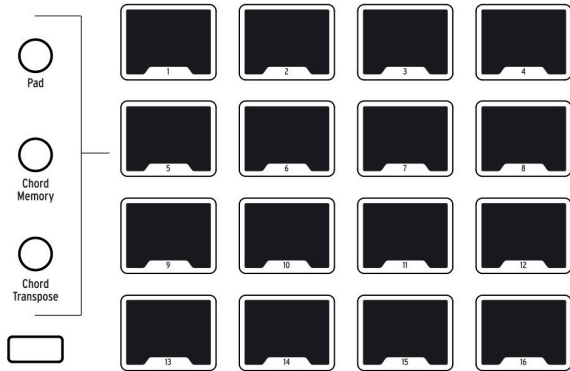
トランスポーズを解除するには、Transボタンを押しながらキーボードのいずれかのCを押します。すると、Transボタンが消灯してトランスポーズが解除されます。

2.4. コードボタン

ChordボタンはChordモードのオン/オフ切替に使用します。Chordモードでコードを設定している場合、コードを指1本で演奏できます。この時、演奏する音程に応じてコードが平行移動します。コードの設定方法につきましては、[Chordモードチャプター \[p.57\]](#)をご参照ください。

本機の패드やChordモードの詳細につきましては、次のページ以降をご覧ください。

2.5.패드モードボタン & 패드



KeyLab MkIIはベロシティ & プレッシャーセンス付きの多機能マルチカラー自照式패드を16個装備しています。この패드はポリフォニックアフタータッチの送信も可能で、表現力に富んだコントロールができます。

パッドはドラムやパーカッションパートの打ち込みや演奏でよく使われますが、KeyLab MkIIのパッドではコードのトリガリングやMIDI CCメッセージの送信、接続したソフトウェアインストゥルメントや外部MIDIハードウェア機器のプログラム選択も可能です。また、[ユーザープリセットをエディット \[p.44\]](#)したり[MIDI Control Center \[p.65\]](#)を使うことで패드ごとに個別の設定ができます。

i コード関連のパッドの機能は[Chordモードチャプター \[p.57\]](#)でご紹介します。その他のパッドの機能は[Userモードチャプター \[p.44\]](#)と[MIDI Control Centerチャプター \[p.65\]](#)でご紹介します。

2.5.1. 3つのパッドモード

パッドの左側にはモードを切り替えるボタンが3つあります：

- **パッドモード：** パッドを押すとMIDIメッセージを送信します。出力するMIDIメッセージは、[フロントパネル \[p.44\]](#)または[MIDI Control Center \[p.65\]](#)で設定できます。
- **コードメモリーモード：** パッドごとにコードをメモリーでき、パッドを押すことでコードの演奏ができます。
- **コードトランスポーズモード：** 各パッドにメモリーされているコードをキーボードで演奏できます。このモードに入ったときは、Chordボタンが点灯します。

パッドのコード関連の機能や動作につきましては、[Chordモードチャプター \[p.57\]](#)をご覧ください。

 **I** ステージなど光量の少ない環境で使用する場合は、パッドのバックライトLEDを常時点灯させることもできます。機能は、本機の[グローバル設定 \[p.21\]](#)か[MIDI Control Center \[p.65\]](#)で設定できます。

2.5.2. パッドにMIDIノート割り当てる

デフォルト設定では、パッドには以下のノートナンバーが割り当てられています：



上図のノートナンバーの範囲は、キックやスネア、ハイハット、シンバルなどのMIDIドラムマッピングでよく使われている音域です。また、パッドごとのノートナンバーの配置はライブなどで演奏しやすいものになっています。ノートナンバーの割り当ては、[User Editモード \[p.46\]](#)または[MIDI Control Center \[p.65\]](#)の[パッドのカスタマイズ \[p.67\]](#)で変更できます。

2.6. Analog Lab/DAW/Userモード



センターノブの下にはKeyLab MkIIのメインモードを切り替えるボタンが3つあります：

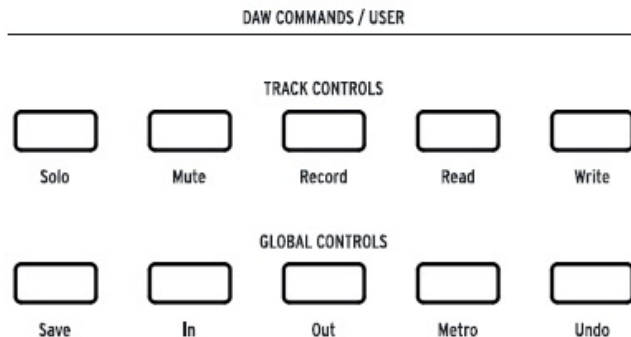
- **Analog Lab**：ノブやフェーダーがAnalog Labのパラメーターをコントロールできるモードです。パラメーター名は青字でプリントされています。センターノブとその周囲のボタン、フェーダー下のボタンは、プリセット選択時のフィルタリングに使用します。
- **DAW**：フロントパネルのほとんどのコントローラーをレコーディングソフトウェアのコントロールに使用できるモードです。
- **User**：独自のコントロール設定をメモリーした10種類のプリセットを使用するモードです。プリセットは**フロントパネル [p.44]**または**MIDI Control Center [p.65]**でカスタマイズできます。

ユーザープリセットは、KeyLab MkIIのコントロール類とパラメーター（ベロシティカーブ、ノブアクセラレーション、MIDI In/Out設定、CV In/Out設定等）の設定を行うものです。これらの設定は、DAWとAnalog Labモードにも適用され、カスタマイズした設定をこれらのモードでも使用できます。

しかし、Analog LabまたはDAWメモリーを使用している場合、以下の特定のコントロールにつきましては機能固定で、ユーザープリセットで変更することはできません。

- Analog Lab
 - サステインペダルMIDI CC = 64 (他のサステインペダルパラメーターも共通)
 - エクスプレッションペダルMIDI CC = 11 (他のエクスプレッションペダルパラメーターも共通)
 - モジュレーションホイールMIDI CC = 1 (他のモジュレーションホイールパラメーターも共通)
 - エンコーダー1-9は機能固定 (アクセラレーションは共通)
 - フェーダー1-9は機能固定
 - セレクトボタン1-9は機能固定
- DAW
 - DAWコントロールは機能固定
 - エンコーダー1-9は機能固定 (アクセラレーションは共通)
 - フェーダー1-9は機能固定
 - セレクトボタン1-9は機能固定

2.7. DAW Commandsセクション



KeyLab MkIIのフロントパネル お使いのDAWに合ったオーバーレイをご使用ください

DAWボタンを押してDAWモードに入ると、フロントパネルの機能は様々なコントロールに対応できます。このモードはKeyLab MkIIでDAWをコントロールして作曲やレコーディングをする時に便利です。

2.7.1.トラックコントロール / グローバルコントロール

KeyLab MkIIは業界標準のMackie HUIプロトコルを採用し、下表のようなレコーディングソフトウェアの主要なコマンドのほとんどを使用できます：

トラックコントロール [1]	
Solo	選択したトラックのソロ
Mute	選択したトラックのミュート
Record	選択したトラックをレコーディング待機状態にセット
Read	選択したトラックのオートメーションを再生可能状態にセット
Write	選択したトラックのオートメーションをレコーディング可能状態にセット

グローバルコントロール	
Save	プロジェクトをセーブ
In	パンチイン録音のスタートポイントを設定
Out	パンチイン録音のエンドポイントを設定
Metro / Project	DAWのメトロノームのオン/オフ切替、またはプロジェクト選択画面を開く [2]
Undo	録音ミスやトラックの消去など、直前の操作の取り消し

[1] KeyLab MkIIのトラックコントロールにはシングルとマルチの2モードがあります。詳しくは、[トラックコントロール \[p.35\]](#)をご覧ください。 [2] Pro ToolsプリセットではMetronomeボタンではなくProjectボタンになります。

2.7.2. 8種類のDAWプリセット


DAWモードには8種類のプリセットがあり、その中の6種類は主要なDAWに対応しています。6種類のDAW [p.34]に対応したTrack/Globalボタンの機能名がプリントされたオーバーレイを付属しています。

残りの2種類の汎用プリセットはその他のDAWのコントロール機能（スタンダードMCUとスタンダードHUI）に対応しています。KeyLab MkIIのパネル上にプリントされているTrack/Globalボタンの機能名がMCU/HUIに対応したものです。

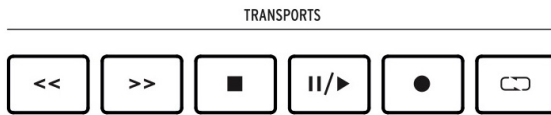
MMCプリセットは、MCU/HUIに未対応のDAWやMIDI機器に、トランスポートコントロールを使用してスタンダードMMCメッセージを送信するためのものです。

プリセットを選択するには、DAWモードボタンを約1秒長押しして、センターノブでDAWプリセットを選択します。

DAWモードの各種機能の詳細につきましては[DAWモードチャプター \[p.33\]](#)をご参照ください。

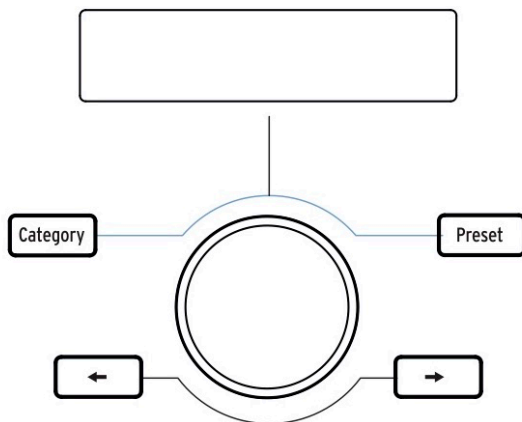
 お使いのDAWが[プリセットリスト \[p.34\]](#)にない場合、そのDAWはMCUまたはHUIプリセットでコントロールできる可能性があります。お使いのDAWの説明書などで対応プロトコルをお確かめください。

2.8. トランスポートコントロール



トランスポートセクションには主要なトランスポートボタン（早戻し、早送り、停止、再生/一時停止、録音、ループ）があります。

2.9. プリセットブラウザ & ディスプレイ



KeyLab MkIIはパワフルなプリセットブラウザ機能とクリック可能なセンターノブでAnalog Labのプリセットを素早く見つけ出すことができます。

Analog Labモード [p.24]に入ると、**Category**、**Preset**、**左右の矢印ボタン**でプリセットを選択できます。

i 注: Analog Labモードに入るには、センターノブの下にある**Analog Lab**ボタンを押します。Analog Labモードの詳細につきましては、Analog Labのマニュアルまたは本マニュアルの**Analog Labチャプター [p.24]**をご参照ください。

Userモード [p.44]では、上記のボタンでMIDIプログラムチェンジを送信できます。詳しくは、[こちら \[p.45\]](#)をご覧ください。

i 注: Userモードに入るには、センターノブの下にある**User**ボタンを押します。Userモードの詳細につきましては、**Userモードチャプター [p.44]**をご覧ください。

2.10. コントロールボタン



コントロールボタンは、KeyLab MkIIのエンコーダー、フェーダー、ボタンの機能を切り替える時に使用します。これらの機能は選択したモードによって次のように変化します：

- **Analog Labモード [p.24]**：3つのレイヤーにグルーピングされているコントローラーセットの選択やマクロの選択 (マルチモード時) に使用します。Liveボタンはスプリットモードのオン/オフ [p.31]とスプリットポイントの設定時に使用します。
- **DAWモード [p.33]**：トラックグループの選択に使用します。
- **Userモード [p.44]**：3種類のユーザーコントローラーセットから1つを選択する時に使用します。

各モードの詳細につきましては、上記のリンクからそれぞれのページをご参照ください。

2.11. エンコーダー



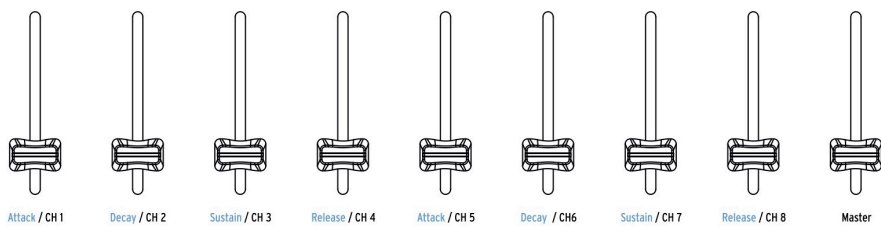
9個のロータリーノブはエンドレスタイプのエンコーダーで2種類の機能があります。

Analog Labモード [p.24]：Analog Labのパラメーターに対応しています。左から4個目までのエンコーダーは、9個目のエンコーダー (Chorus) のように、パラメーター名が青字でプリントされています。エンコーダー5～8に対応するパラメーター名は、プリセットにより変化します。

DAWモード [p.33]：DAWのミキサートラックのパンニングをコントロールします。

10種類のユーザープリセット [p.44]のそれぞれで、各エンコーダーに個別のMIDIコントロールメッセージを割り当てることができます。1プリセット内には、9個のエンコーダーに割り当てた機能セットを3バンク分メモリーできます。また、エンコーダーごとに機能名を入れることができ、そのエンコーダーを回した時に機能名をディスプレイに表示させることも可能です。機能の割り当て等は**フロントパネル [p.44]**または**MIDI Control Center [p.65]**で設定できます。

2.12. フェーダー



エンコーダーと同様、KeyLab MkIIの9本フェーダーも選択したモードによって機能が異なります。

Analog Labモード [p.24]では、フェーダー1~8でエンベロープのパラメーター (パネル青字) をコントロールします。フェーダー9はプリセットのマスターボリュームをコントロールします。

DAWモード [p.33]では、フェーダー1~8がDAWのチャンネルフェーダーとして機能し、フェーダー9はマスターフェーダーをコントロールします。フェーダーの左側にあるコントロールボタンでチャンネルフェーダーのグループを切り替えることができます。

フェーダーも色々なタイプのMIDIメッセージを送信でき、各フェーダーにMIDIメッセージを割り当てたセッティングを3種類持った**Userプリセット**を10種類 [p.44]メモリーできます。MIDIメッセージの割り当ては**フロントパネルでの操作** [p.44]、または**MIDI Control Center** [p.65]を使用して行えます。また、フェーダーに機能名を付けることができ、フェーダー操作時にその機能名をディスプレイに表示させることも可能です。

2.13. フィルター/セレクトボタン



フェーダーの下にある9個のボタンも、選択したモードによって色々な機能があります。

Analog Labモード [p.24]ではピアノやリードなど、インストゥルメントのタイプ選択に使用します。タイプを絞ることで欲しいプリセットをより早く選び出すことができます。

DAWモード [p.33]ではDAWのトラック選択、または選択したトラックのソロ、ミュート、レコーディング待機のオン/オフ切替として機能します。フェーダーの左側にある3つのボタンでトラックグループを切り替えることができます。

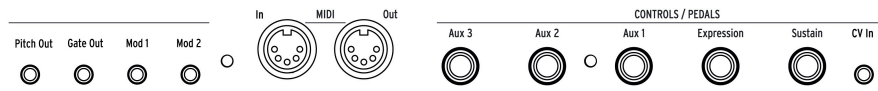
i 注: DAWモードの場合、本機の**グローバル設定** [p.21]か、MIDI Control Centerの**Device Settings** [p.79]タブでセットしたトラックコントロールの設定によって (シングルかマルチ)、ボタンの機能が異なります。

Userモード [p.44]では、ボタンからMIDIコントロールメッセージやノートデータ、プログラムチェンジを送信できます。各ボタンに3種類の機能を割り当てた**プリセットを10種類** [p.44]メモリーできます。機能の割り当ては、**フロントパネルでの操作** [p.44]または**MIDI Control Center** [p.65]で設定できます。



各ボタンは個別に点灯色を設定できます。これは**MIDI Control Center** [p.65]でのみ設定できます。

2.14. リアパネル



リアパネルは**使い始める** [p.4]でご紹介しましたが、ペダル端子とCV/Gate/Mod端子の詳細は**チャプター5** [p.44]と**チャプター7** [p.62]でそれぞれご紹介します。ここでは、それぞれを簡単にご紹介します。

2.14.1. Controls/Pedals/CVイン

5つのペダル端子は個別にMIDIメッセージを送信できます。それぞれのデフォルト設定は各端子にプリントされていますが、どの端子もフットスイッチとエクスプレッションペダルの両方が使用できます。各端子の機能割り当ては**フロントパネルでの操作** [p.44]か**MIDI Control Center** [p.65]で行えます。

CVインはUserモードで外部機器からのCVをモジュレーションソースとして利用できます。CVインによるモジュレーションの動きはDAWにレコーディングすることもできます。詳細は、**Userモードチャプター** [p.44]と**CV/Gate/Modの接続** [p.62]をご覧ください。

2.14.2. Pitch/Gate/Modアウト

この4つのアウトはKeyLab MkIIでモジュラーシンセサイザーをコントロールする時に使用します。出力する電圧レンジは**User Editモード** [p.46]か**MIDI Control Center** [p.65]で設定できます。

USB to CV : KeyLab MkIIはUSB経由で受信したMIDIメッセージをCVに変換できます。Mod1とMod2に使用するMIDIチャンネルとMIDI CCは、**User Editモード**か**MIDI Control Center**で設定できます。

2.15. その他の機能

2.15.1. グローバル設定

KeyLab MkIIには便利なキーボードショートカットがあります。MIDIチャンネルを変更する [p.9]方法はすでにご紹介しましたが、その他の機能につきましては、[Userモードチャプター \[p.50\]](#)でご紹介します。

ここではKeyLab MkIIの全モード、全プリセットに関するグローバル設定をご紹介します。

2.15.1.1. グローバル設定に入る

グローバル設定のチェックやエディット方法は次の通りです：

1. Userモードボタンを約1秒長押しします。するとボタンが点滅します。
2. "Global"がプリントされているキーボードのキーを押します。この時、ディスプレイの上の行に"Global"、下の行に"LowPower"と表示されます。
3. センターノブを回してエディットしたいグローバルパラメーターを探します。
4. センターノブをクリックしてパラメーターを選択します。
5. センターノブを回してそのパラメーターの値を変更します。

グローバル設定はMIDI Control Center [p.65]を使用してエディットすることもできます。この中には[ペダルキャリブレーション \[p.81\]](#)などの機能も入っています。

2.15.1.2. グローバル設定チャート

下表はグローバル設定の各種パラメーターをまとめたものです。各設定の詳細は本マニュアルの[Device Settings \[p.79\]](#)でご紹介します。

名称	レンジ	内容
Low Power mode	On/Off	電源投入時のLED電飾シーケンスとヴェガスモードのオン/オフ
Vegas mode	On/Off	一定時間操作をしない状態が続いた時のLED電飾シーケンスのオン/オフ
Octave Blink	On/Off	オクターブボタンの点滅のオン/オフ
DAW Fader mode	Jump/Pickup	フェーダー操作時のパラメーター値の反応モード設定
User Fader mode	Jump/Pickup	フェーダー操作時のパラメーター値の反応モード設定
DAW Button	User/DAW	Userモード時のDAWコントロールボタンの機能選択
Track Control mode	Single/Multi	トラックコントロールとセレクトボタンの機能切替
Pad Velocity curve	Lin/Log/Exp/Fix	パッドのベロシティカーブ設定
Pad LED	On trig/Always	パッドのイルミネーション設定
Pad Aftertouch curve	Lin/Log/Exp	パッドのアフタータッチカーブ設定
Pad Aftertouch minimum	0-127	パッドのアフタータッチ最小値の設定
Pad Aftertouch maximum	0-127	パッドのアフタータッチ最大値の設定
Keyboard Aftertouch curve	Lin/Log/Exp	キーボードのアフタータッチカーブ設定
Keyboard minimum Aftertouch	0-127	キーボードのアフタータッチ最小値の設定
Keyboard maximum Aftertouch	0-127	キーボードのアフタータッチ最大値の設定
MIDI In to USB	On/Off	MIDIインからのMIDIメッセージのUSBポートへの出力オン/オフ
USB In to MIDI Out	On/Off	USBポートからのMIDIメッセージのMIDIアウトへの出力オン/オフ

2.15.2. パニックメッセージの送信

キーボードを押したままの状態ですぐにインストゥルメントの切替などを行うと、音が止まらなくなってしまう場合があります。同様に、コントローラーのパラメーター値が予想外の値になってしまうこともあります。このような場合、全MIDIチャンネルに全コントローラーのリセットと、"ノートオフ"メッセージを送信する"パニックメッセージ"を送信して対処することができます。

KeyLab MkIIでは、**Stop**ボタンを素早く3回押すとパニックメッセージを送信します。

2.15.3. ファクトリーリセット

KeyLab MkIIを工場出荷時の状態に戻したい場合はファクトリーリセットを実行します。これを行うと、本機が初期化されてすべての設定が初期化されます。


 **!**: ファクトリーリセットを実行すると10種類のユーザープリセットすべてを上書きして、デフォルト設定に初期化されます。ユーザープリセットを残しておきたい場合は、[MIDI Control Center \[p.65\]](#)を使用してバックアップを取ってください。

ファクトリーリセットは次の手順で行います：

- リアパネルの電源スイッチでKeyLab MkIIの電源をオフにします。
- Oct+とOct-ボタンを押したままにします。
- 電源をオンにします。
- ディスプレイにファクトリーリセットのメッセージが表示されます。
- ファクトリーリセットを実行する場合は、センターノブを押します。

3. ANALOG LAB モード

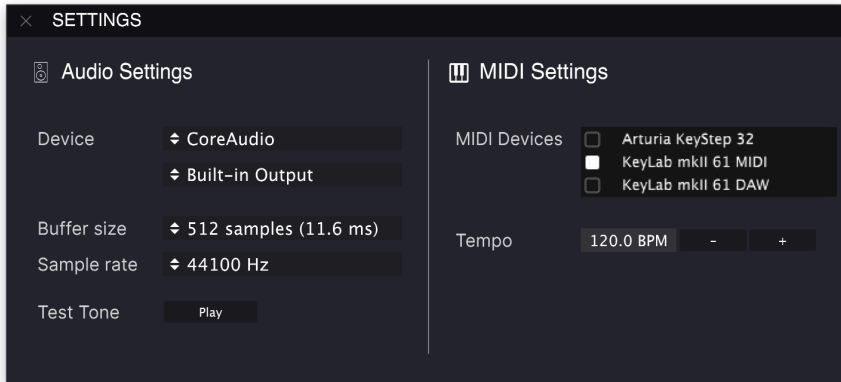
KeyLab MkIIは様々な音楽環境に対応可能であると同時に、付属のAnalog Labソフトウェアインストールメントに完全対応しています。プリセットの選択からそのエディットやコントロールに到るまで、KeyLab MkIIとAnalog Labは最強のコンビネーションです。

 このチャプターではAnalog Labを操作するためのKeyLab MkIIの各種機能をメインにご紹介し、Analog Labについても一部ご紹介します。Analog Labの機能の詳細につきましては、Analog Labのユーザーマニュアルをご参照ください。

3.1. Analog Labと接続する

KeyLab MkIIでAnalog Labを使用する前に、次の手順が必要となります：

- Analog Labをダウンロードし、インストールし、アクティベートする必要があります。手順は[こちら \[p.3\]](#)をご覧ください。
- KeyLab MkIIとコンピュータを接続します。
- Analog Labを起動します。
- KeyLab MkIIのAnalog Labボタン (センターノブの下にあります) を押してAnalog Labモードに入ります。
- キーボードを弾きます。Analog Labが反応しない場合は、プリファレンスを開いて**MIDI Devices**ウィンドウでKeyLab MkIIを選択しているかどうかをチェックしてください (下図 参照)。



ここまでの手順が済みましたら、Analog Labを起動すればいつでもKeyLab MkIIに接続します。ですが、初めてご使用になる場合は、Analog Labの画面下部にあるMIDI ControllerフィールドでKeyLab MkIIを選択する必要があります。

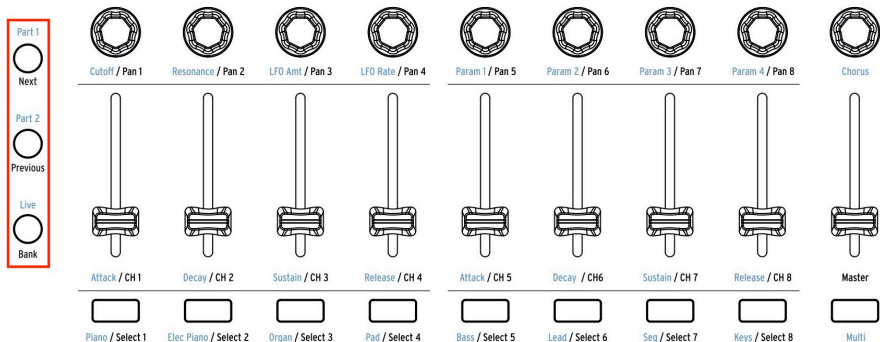
その設定にアクセスするには、Analog Lab画面の右にあるギアのアイコンをクリックし、MIDIタブをクリックして"KeyLab MkII"か"KeyLab MkII 88"を選択します。これにより、お使いのキーボードに適したマッピングがロードされます。キーボードにマッピングされたAnalog Labのパラメーターをチェックするには、画面最下部右のControlsボタンをクリックします。



上図のようなリストが表示されましたら、KeyLab MkIIを選択します。

i 注: DAWモードに入っていて、選択しているトラックがAnalog Labの場合、Analog Labモードに切り替えればこのチャプターで紹介するすべての機能を使用できます。また、Analog Labモードに入ってもDAWコマンドセクションとトランスポートセクションはDAWモードと同様に使用できます。しかし、TrackセレクトボタンはAnalog Labモードではプリセット選択のフィルタリングに使用しますので、別のトラックやトラックグループを選ぶ場合はDAWモードに切り替える必要があります。

3.2. パート/ライブ選択



エンコーダーやフェーダーなどのエリアの左側には、3つのコントロールボタンがあります（上図の赤枠）。**Analog Labモード**ではボタンの上の青字が選択されます：

- **Part 1**：シングルインストゥルメントやマルチのパート1をコントロールする場合に選択します。
- **Part 2**：マルチのパート2をコントロールする場合や、シングルプリセットに**セカンドレイヤーを追加する [p.31]**場合に選択します。
- **Live**：マクロパラメーターやパートの音量/パンニングをコントロールする場合や、選択しているマルチのA/Bコントロールを送信する場合に選択します。Liveボタンを押しながらキーボードで1音弾くと**スプリットモード [p.31]**がオンになります。

 **i**：マクロはAnalog Labで作成します。マクロとマルチの詳細につきましては、Analog Labのユーザーマニュアルをご覧ください。

3.3. プリセットをブラウズする

Analog Labモードでは、センターセクションとFilterボタンでプリセットを効率的に選択できます。

3.3.1. Filter buttons



Filter/Selectボタン

音楽制作をしている時には、例えばピアノやリード、シーケンスなど、欲しいサウンドのタイプがすでに分かっていることもあります。そのような場合にはFilterボタンがプリセット選びの出発点になります。Filterボタンはフェーダーの下にあり、9種類のカテゴリーが青字でプリントされています：

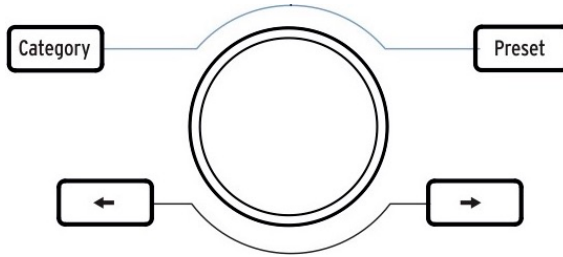
フィルタータイプ	内容
Piano	アコースティックピアノ：コンサートグランド、アップライトなど
Elec Piano	エレクトリックピアノ：スツケース、ステージ、ウーリツァーなど
Organ	B3, Farfisa, VOX Continentalなど
Pad	シンセストリングス、ボイス、その他パッド系
Bass	シンセベース、オルガンベースなど
Lead	シンセリード（メロウなものからハードなものまで）
Seq	シーケンスやアルペジオパターン（モノフォニック、ポリフォニック）
Keys	シンセやバックিং向けキーボード音など
Multi	スプリット/レイヤー音色

例えば、**Piano**ボタンを押すとフィルタリングによりピアノ系プリセットがロードされ、**Pad**ボタンを押すとパッド系プリセットがロードされます。

フィルタリングのボタンを押すと、それにヒットしたプリセット名がディスプレイに表示され、プリセット名の左にアスタリスク(*)が表示されます。この状態で**左右の矢印ボタン**やセンターノブを操作するとその他にヒットしたプリセットにスクロールします。フィルタリングを解除する場合は、同じフィルタリングのボタンを再度押します。

Multiボタンを押した場合はマルチカテゴリーのプリセットがロードされ、2つのインストゥルメント名がディスプレイに表示されます。マルチモードの詳細につきましては、Analog Labのユーザーマニュアルをご参照ください。

3.3.2. CategoryとPresetボタン



Categoryと**Preset**ボタンは、センターノブでAnalog Labのインストゥルメントやタイプ、スタイルを選んでプリセットの絞り込みサーチをする時に便利です。絞り込み条件はKeyLab MkIIのディスプレイにもAnalog Labの画面上にも表示されます。

欲しいサウンドに適した絞り込み条件がありましたら、センターノブをクリックしてそれを選択します。選択した条件はAnalog Labの画面に青枠が付いた状態で表示されます。センターノブをもう一度クリックすると条件選択が解除されます。

絞り込み条件の決定後、**Preset**ボタンを押すと条件にマッチしたプリセットをセンターノブでスクロールできます。センターノブをクリックするとプリセットが選択されます。


条件にマッチしたプリセットを素早くオーディションしたい場合は**左右の矢印ボタン**が便利です。この場合、センターノブをクリックすることなく矢印ボタンを押すだけで次のプリセットに切り替わります。

3.3.3. フィルタリングを解除する

すべての絞り込み条件を瞬時に解除したい場合は、センターノブを反時計回りに**Clear: All Sounds**ページまで回してノブをクリックします。また、Analog Labの画面にある"Clear All"ボタンでも同じことができます。

3.4. エンコーダーとフェーダー

KeyLab MkIIの他のモードと同様、Analog Labモードでもディスプレイの右側にあるコントローラー群で色々な機能が使用できます。Filterボタンにつきましては[プリセットをブラウズする \[p.27\]](#)でご紹介しましたので、次はエンコーダーとフェーダーについてご紹介します。

 プリセットによってはフロントパネルにあるものとは違うコントローラーが割り当てられているものもあります。

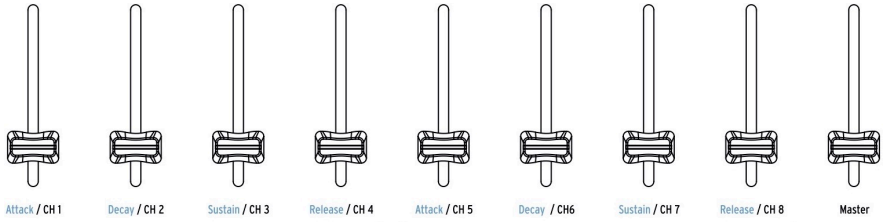
3.4.1. エンコーダー



エンコーダー下の青字の機能がAnalog LabモードのPart 1とPart 2で使用できます：

エンコーダー#	機能名	内容
1	Cutoff	フィルターのカットオフ周波数
2	Resonance	フィルターレゾナンス (使用できる場合のみ)
3	LFO Amt	LFOモジュレーションの深さ
4	LFO Rate	LFOの周期またはサンプル/ホールドの周期
5	Param 1	アサインابل：プリセットによって変わります
6	Param 2	アサインابل：プリセットによって変わります
7	Param 3	アサインابل：プリセットによって変わります
8	Param 4	アサインابل：プリセットによって変わります
9	Chorus	コーラスのエフェクトレベル

3.4.2. フェーダー



フェーダー下の青字の機能がAnalog LabモードのPart 1とPart 2で使用できます：

フェーダー#	機能名	内容
1	Attack	フィルターエンベロープのアタックタイム調節
2	Decay	フィルターエンベロープのディケイタイム調節
3	Sustain	フィルターエンベロープのサステインレベル調節
4	Release	フィルターエンベロープのリリースタイム調節
5	Attack	アンプエンベロープのアタックタイム調節
6	Decay	アンプエンベロープのディケイタイム調節
7	Sustain	アンプエンベロープのサステインレベル調節
8	Release	アンプエンベロープのリリースタイム調節
9	Master	Analog Labの出力ボリューム調節 (Part 1とPart 2)

3.4.3. Liveボタン

Liveボタンを押すと、Analog Labモードでエンコーダーとフェーダーに割り当てた機能の3つ目のバンクが選択されます。この時、Analog LabのLiveタブが選択され、マクロがエンコーダー1～8に割り当てられます。マクロは、Part 1またはPart 2、あるいは両方で最大4つのパラメーターを同時にコントロールできます。Liveボタンを押した状態では、フェーダー下の青字の機能はコントロールできません。

Liveタブではエンコーダーだけでなく、ミキサータイプの機能をフェーダーに割り当てることもできます。パンニングやレベル、エフェクトセンドやリターン、その他のパラメーターをパートごとに割り当てられます。



♪: Liveタブの詳細につきましては、Analog Labのユーザーマニュアルをご参照ください。

3.5. マルチを構築する

Multiモードでは、2つのプリセットをキーボードで同時に演奏できます。2つのプリセットを重ねて演奏できるレイヤーや、キーボードを2つに分割して別々のプリセットを割り当てるスプリットにすることもできます。

マルチの構築方法は次の通りです：

3.5.1. シングルプリセットを選ぶ

最初にAnalog Labのシングルプリセットを選びます。どんなプリセットでも構いませんが、マルチプリセットではなくシングルプリセットを選んでください。シングルプリセットはAnalog Labの画面にインストゥルメントが1つだけ表示されるプリセットです。マルチプリセットは画面に2つのインストゥルメントが表示されます。

シングルプリセットを選ぶと、KeyLab MkIIのPart 1のみが使用できる状態になります。キーボードを弾くと選択したプリセットの音が出ます。パネル上のPart 1ボタンが点灯し、視覚的にもシングルプリセットだということが確認できます。

センターノブを回して、これからマルチにしたいシングルプリセットを探すこともできます。この時、Filterボタン [p.27]で絞り込みサーチもできます。この時点ではMultiボタンはまだ押さないでください (Multiボタンはフロントパネル右側にあります)。

3.5.2. Part 2を追加する

色々なプリセットの選び方 [p.27]に慣れてきて、2つのプリセットを組み合わせるとマルチにしたいと思ったら、Part 2ボタンを押します。Analog LabがMultiモードのスワップモードに切り替わり、Analog Labの画面上でPart 2スロットがオープンします。

この状態でPart 2に割り当てるプリセットをKeyLab MkIIのフロントパネルで選ぶことができます。最初のパートを選んだ時と同様、Filterボタンやカテゴリーセレクトなどで絞り込みサーチもできます。



♪: Multiモードやスワップモードの詳細につきましては、Analog Labのユーザーマニュアルをご覧ください。

3.5.3. スプリットポイントを設定する

Part 2を追加すると最初は2つのプリセットが重なったレイヤーになります。キーボードを2つの領域に分割して別々のプリセットを演奏したい場合は、スプリットにする必要があります。スプリットはKeyLabMkIIでもAnalog Labでも設定できます。


キーボードでスプリットポイントを設定するには、Liveボタンを押しながら分割したい位置のキーを押します。この時ディスプレイは押したキーの音名を表示してスプリットモードに入ります。Part 1はスプリットポイントの左側 (低音側) になり、Part 2は右側 (高音側) になります。Liveボタンを放すとディスプレイの表示が元のページに戻ります。

上記の操作は次の場合にも使用できます：

- すでにスプリットモードになっているマルチのスプリットポイントを変更する場合
- レイヤーになっているマルチをスプリットにする場合

3.5.4. スプリットモードを解除する

Liveボタンを押しながらスプリットポイントのキーを押します。ディスプレイに"Off"と表示され、スプリットモードが解除されます。スプリットポイントでないキーを押してしまった場合は、もう一度同じキーを押してLiveボタンを放せば元の画面表示に戻ります。

: スプリットポイントの追加/削除はレイヤーのマルチを構築する場合にも便利です。一旦スプリットモードにしてそれぞれのパートを単独で演奏できる状態にし、どちらのパートがレイヤーにとって重要かを確認でき、レイヤーに戻して2つのパートのバランスや弾きやすさを改めてチェックできます。

4. DAWモード

センターセクションのDAWモードボタンを押すとDAWモードに入ります。このモードには8種類のDAWモードプリセットがあり、その中の6種類は主要なDAWに対応したプリセットです。残りの2種類はスタンダードMCUとスタンダードHUIプリセットですので、この8種類のプリセットでほとんどのDAWに対応できます。



♪: お使いのDAWでKeyLab MkIIを使用するための設定につきましては、Arturiaウェブサイトの[KeyLab-MkII FAQ](#)をご覧ください。

4.1. DAWモードのオーバービュー

KeyLab MkIIがDAWモードに入っている場合、モードを切り替えることで他のメインモード (Analog LabとUserモード) も使用できます。ただし、他のモードに入っている場合、一部のDAWモードの機能が使用できない場合がありますのでご注意ください。

例えば、Track Selectボタンの機能はモードによって変わります。Analog Labモードに入るとトラック上にAnalog Labの画面を開くと、Track SelectボタンはAnalog LabのFilterボタンとして機能します。

ところが、Analog Labモードで使用しないDAWに特化したコントロールは使用できません。例えば、DAWコマンドボタンは選択したDAWプリセットのトラックやグローバル機能のコントロールに使用できません。

一方Userモードに入った場合、DAWコマンドボタンはユーザープリセットの機能に割り当てられています。この場合コマンドボタンを押すとDAWモードでの機能を実行する場合もあれば、別のMIDIメッセージを送信する場合があります。この場合の設定は[グローバル設定 \[p.21\]](#)の各ボタンが、MIDI Control Centerの[Device Settings \[p.79\]](#)ページで行えます。



♪: トランスポートボタンはどのメインモード (Analog Lab, DAW, User) でもトランスポートコントロールとして機能します。

4.2. DAWプリセットの選択

DAWモードボタンを約1秒長押しするとDAWプリセット選択ページに入ります。次にセンターノブを回して必要なDAWプリセットを探します。センターノブをクリックするとDAWプリセットが選択され、そのDAWのほとんどの主要な機能のコントロールがKeyLab MkIIで行えます。



♪: お使いのDAWがプリセットに入っていない場合、そのDAWがMCUとHUIプロトコルに対応しているかどうかでKeyLab MkIIとの互換性が変わります。詳しくは[Arturiaウェブサイト](#)のKeyLab MkIIページか、お使いのDAWのマニュアル等をご覧ください。

4.2.1. DAWプリセットリスト

プリセット	DAW
1	Standard MCU
2	Standard HUI
3	Ableton Live
4	Logic Pro X
5	Pro Tools
6	Cubase
7	Studio One
8	Reaper
9	MMC

4.3.トラック/グローバルコントロール

業界標準のMackie HUIプロトコルを使用し、DAWでよく使われるコマンドのほとんどをKeyLab MkIIでコントロールできます。トラックコントロールとグローバルコントロールの違いは次の通りです：

- **トラックコントロール**ボタンは選択したトラックのみのコントロール（ソロ/ミュート/録音スタンバイ等）をします。2つの動作モード（シングルとマルチトラック）につきましては、次のセクションをご覧ください。
- **グローバルコントロール**ボタンはソングまたはプロジェクト全体にかかる機能をコントロールします。

以下の2つのセクションではKeyLab MkIIのフロントパネルにプリントされている機能についてご紹介します。各DAWプリセットに特化した機能につきましては[こちら \[p.40\]](#)をご覧ください。

4.3.1.トラックコントロール



KeyLab MkIIのTrack Controlボタン。お使いのDAWに合わせて付属のオーバーレイをご使用ください

トラックコントロールにはシングルとマルチトラックという2つの動作モードがあります。モードの切替はKeyLab MkII本体の[グローバル設定 \[p.21\]](#)か、MIDI Control Centerの[Device Settings \[p.79\]](#)タブで行えます。

どちらのモードでもフェーダー下の8つのSelectボタンで操作しますが、動作の仕方が次のように微妙に異なります：

シングルトラックモードでは、**Select**ボタンで選択したトラックに対して適用する機能を**Track Control**ボタンで選択します：

- **Solo**：選択したトラックをソロにします。
- **Mute**：選択したトラックをミュートします。
- **Record**：選択したトラックを録音モードにします。
- **Read**：選択したトラックのオートメーションデータを使用可能な状態にします。
- **Write**：選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にします。

マルチトラックモードでは、**Track Control**ボタンで選択した機能を適用するトラックを**Select**ボタンで指定します。Soloボタンを押したときは、Selectボタンを押したトラックにソロ機能が適用され、Muteボタンを押したときは、Selectボタンを押したトラックがミュートします。この方法では、トラックごとに操作する必要がなく、複数トラックの操作を素早く行うことができます。

- **Solo**：Selectボタンを押したトラックがソロになります。
- **Mute**：Selectボタンを押したトラックがミュートします。
- **Record**：Selectボタンを押したトラックが録音モードになります。
- **Read**：Selectボタンを押したトラックがオートメーション使用可能な状態になります。
- **Write**：Selectボタンを押したトラックがオートメーション記録可能な状態になります。

マルチトラックモードの場合、Track Controlボタンで選択した機能をSelectボタンのLED点灯色で表示します (ソロ=青、ミュート=黄色、録音モード=赤)。



♪: [Channel and Bankセクター \[p.37\]](#)でDAWのプロジェクト内のトラックのグループを変更できます。

4.3.2. グローバルコントロール



KeyLab MkIIのGlobal Controlボタン。お使いのDAWに合わせて付属のオーバーレイをご使用ください

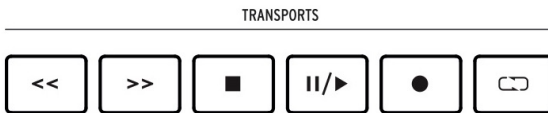
- **Save** : プロジェクトを保存します。
- **In** : パンチイン/アウト録音のスタート位置を設定します。
- **Out** : パンチイン/アウト録音の終了位置を設定します。
- **Metro** : DAWのメトロノームのオン/オフを切り替えます。[1]
- **Undo** :トラックの削除やMIDIメッセージの取り込みなど、直前の操作を取消します。

[1] Pro ToolsのDAWプリセット使用時は、Projectボタンとして機能します。

♪: DAWコマンドセクションのボタンは特定のコントロールメッセージのみをDAWに送信し、メッセージの再割当てはできませんが、[User Editモード \[p.44\]](#)を使用することでこれらのボタンに様々なMIDIメッセージを割り当てられます。

各DAWプリセットでのトラック/グローバルコントロールの機能割り当てにつきましては、[こちら \[p.40\]](#)をご覧ください。

4.4. トランスポートコントロール



トランスポートセクションでは次のようなトランスポートコントロールが行えます：

- **早戻し/早送り** : DAWの実際の反応はDAWによって変わります。再生カーソルが前方や後方に加速して移動するDAWもあれば、1小節ずつジャンプするもの、前後のマーカーにジャンプするものもありますが、基本コンセプトとして**早戻し/早送りボタン**は再生カーソルを前方または後方に素早く移動させてトラック上の任意のポイントを見つけるなどの目的で使用します。
- **停止** : 再生を止めます。DAWによっては再生カーソルをトラックの先頭に移動させるものもあります。
- **再生/一時停止** : 再生カーソルの位置から再生を開始したり、その位置で一時停止します。
- **録音** : 録音します。トラックの停止中に録音ボタンを押した時点で録音が始まります。再生中に録音ボタンを押した場合は、その時の再生カーソルの位置から録音します。
- **ループ** : DAWのループ機能のオン/オフを切り替えます。ループ区間の長さはDAWで設定します。

♪: トランスポートボタンはKeyLab MkIIがどのメインモードに入っている場合でもMCU / HUIプロトコルを送信し、別の機能を送信するように設定することはできません。

4.5. センターノブ：ジョグホイールとしての使用

DAWモードに入っている場合、センターノブをジョグホイールとして使用でき、再生カーソルを前後に移動できて作業効率が上がります。

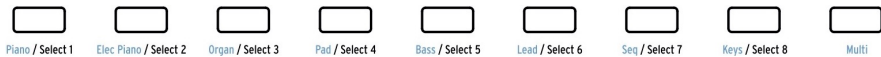
4.6. チャンネル/バンク選択



エンコーダーやフェーダーなどの左側にはコントロールボタンがあります。DAWモードではボタンの下にある黒字の機能が使用できます：

- **Next / Prev**：エンコーダーやフェーダー、ボタンでコントロールするチャンネルを8チャンネル単位または1チャンネル単位で切り替えます。
 - Bankボタンがオン (点灯)：Next / Prevボタンを押すと8チャンネル単位で切り替わります。
 - Bankボタンがオフ (消灯)：Next / Prevボタンを押すと1チャンネル単位で切り替わります。
- **Bank**：Next/Prevボタンの動作モードを切り替えます。

4.7.トラックの選択



これらのボタンの機能は、KeyLab MkII本体の[グローバル設定 \[p.21\]](#)か、MIDI Control Centerの[Device Settings \[p.79\]](#)タブで選択しているトラックモード (シングル/マルチ) によって動作が変わります。

シングルトラックモードではSelectボタンでプロジェクト内のトラックを選択します：


- トラックボタン1を押すと、選択したバンクの最初のトラックをTrack Controlボタンの機能が適用される対象にします。
- トラックボタン2を押すと、選択したバンクの2つ目のトラックをTrack Controlボタンの機能が適用される対象にします。
- トラックボタン3を押すと、選択したバンクの3つ目のトラックをTrack Controlボタンの機能が適用される対象にします。

…というようになります。トラックの選択後、Track Controlのボタンで選択したトラックに対してソロやミュート、録音モードのオン/オフ、オートメーションのリード/ライトなどの操作をします。

マルチトラックモードでは、Track Controlボタンで機能を選択し、それを実行するトラックをSelectボタンで選択します。この方法は、トラックごとに操作する必要がなく、複数トラックの操作をクイックに行うことができます。

例えば、複数トラックをソロにしたいときは、Track Controlボタンで**Solo**を選択し、次に**Track Select**ボタンでソロを実行したいトラックを選びます。

マルチトラックモードの場合、Track Controlボタンで選択した機能をSelectボタンのLED点灯色で表示します (ソロ=青、ミュート=黄色、録音モード=赤)。

 注：DAWモードではボタン9はAbleton Liveでのみ使用します。Ableton Liveと使用する場合は、ボタン9でKeyLab MkIIのフェーダーの機能を切り替えることができます。デフォルト設定ではフェーダーはトラックのボリュームを操作し、ボタン9を押すとフェーダーでAbleton LiveのSEND Aノブをコントロールできます。

4.8. エンコーダーとフェーダー

DAWモードではエンコーダーとフェーダーでミキシングに欠かせない機能をコントロールできます。

4.8.1. DAWモードでのエンコーダー



DAWモードではエンコーダーの下にある黒字の機能が使用できます：

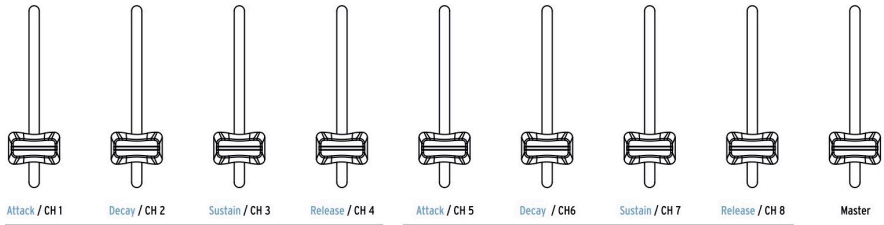
- エンコーダー1：選択したトラックグループの最初のトラックのパンニングをコントロールします。
- エンコーダー2：選択したトラックグループの2番目のトラックのパンニングをコントロールします。
- エンコーダー3：選択したトラックグループの3番目のトラックのパンニングをコントロールします。

…というようになります。



♪：エンコーダー9はDAWモードでは使用しません。

4.8.2. DAWモードでのフェーダー




DAWモードではフェーダーの下にある黒字の機能が使用できます：

- ・ フェーダー1：選択したトラックグループの最初のトラックのレベルをコントロールします。
- ・ フェーダー2：選択したトラックグループの2番目のトラックのレベルをコントロールします。
- ・ フェーダー3：選択したトラックグループの3番目のトラックのレベルをコントロールします。

以下フェーダー8まで同様です。

フェーダー9はソングやプロジェクトのマスターフェーダーとして機能し、楽曲全体のボリュームをコントロールします。

 DAWモードではフェーダーを操作した時のDAWの反応のさせ方をジャンプまたはピックアップ [p.80]の2種類から選択できます。この選択はKeyLab MkIIのフロントパネル [p.21]またはMIDI Control Center [p.65]で行えます。

4.9. DAWプリセットコマンドチャート

4.9.1. スタンダードMCU

セクション	ボタン	内容
Track Controls [1]	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックのすべてのオートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能な状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	In / Out	パンチイン/アウト録音の範囲指定
	Metro	DAWのメトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.2. スタンダードHUI

セクション	ボタン	内容
Track Controls [1]	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックのすべてのオートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能の状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	In / Out	パンチイン/アウト録音の範囲指定
	Metro	DAWのメトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.3. Ableton Live

セクション	ボタン	内容
Track Controls [1]	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
Automation	Arm	選択したトラックをオートメーション記録可能の状態にする
	Re-Enable	上書きされたオートメーションパラメーターを再びオンにする
Global Controls	View	セッションビューとアレンジビューの切り替え
	Punch In / Out	パンチイン/アウト録音の範囲指定
	Metro	メトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.4. Logic Pro X

セクション	ボタン	内容
Track Controls [1]	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックの全オートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能の状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	Replace	録音モード (リプレース/オーバーダブ) の切り替え
	Auto-Punch	設定した範囲でのパンチイン/アウト録音をオンにする
	Metro	メトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.5. Pro Tools

セクション	ボタン	内容
Track Controls [1]	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックの全オートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能の状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	Punch	設定した範囲でのパンチイン/アウト録音をオンにする
	Mix	ミックスウィンドウを表示する
	Proj	プロジェクト選択メニューを開く
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.6. Cubase

セクション	ボタン	内容
Track Controls [1]	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックの全オートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能の状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	Punch In / Out	パンチイン/アウト録音の範囲指定
	Metro	メトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.7. Studio One

セクション	ボタン	内容
Track Controls [1]	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックの全オートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能の状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	Auto-Punch	設定した範囲でのパンチイン/アウト録音をオンにする
	Mixer	ミキサー画面を表示する
	Metro	メトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

4.9.8. Reaper

セクション	ボタン	内容
Track Controls [1]	Solo / Mute	選択したトラックのソロ/ミュート
	Record	選択したトラックを録音モードにする
	Read	選択したトラックの全オートメーションを再生
	Write	選択したトラックをオートメーション記録可能の状態にする
Global Controls	Save	プロジェクトの保存
	Zoom Out / In	トラックウィンドウのズームイン/アウト
	Metro	メトロノームのオン/オフ
	Undo	録音ミスやトラック削除など直前の操作の取り消し

[1] トラックコントロールにはシングルとマルチトラックの動作モードがあります。詳しくは[トラックコントロール \[p.35\]](#)をご覧ください。

5. USERモード

5.1. 全体コンセプト


Userモードボタンを押すとKeyLab MkIIはUserモードに入ります。10種類のユーザープリセットが使用でき、各プリセットでは本機のフロントパネルとリアパネルのほぼすべてのコントローラーやジャックにそれぞれ個別のMIDIコントロールメッセージを割り当てることができます。3バンク分のエンコーダーやフェーダーと同様、各プリセットにも分かりやすいように名前を付けることができます。

Userモードのトップレベル（プレイモード）で各種コントローラーを操作すると、どのコントローラーを操作していて、送信しているMIDIメッセージの種類とそのMIDIチャンネル、送信しているメッセージの値がディスプレイに表示されます。

Userモードの全パラメーターはUser Editモード [p.46]でエディットできるほか、MIDI Control Center [p.65]を使用してエディットすることもできます。また、エディットしたいパラメーターに素早くアクセスできるキーボードショートカット [p.50]もあります。

5.2. ユーザープリセットの選択

Userモードに入ると、センターノブで10種類のプリセットをスクロールできます。使用したいプリセットが見つかりましたら、センターノブをクリックすると選択できます。この時、選択したプリセットのセッティングに瞬時に切り替わります。

 注：フェーダー下のSelectボタンにユーザープリセットをアサインすることもできます。設定はUser Editモード [p.46]で行えます。

5.3. プレイモードでのディスプレイ

Userモードのトップレベルをプレイモードと呼んでいます。このモードでは、オクターブシフトやどのコードを演奏したか、どのコントローラーを操作しているかなど、本機での操作内容がディスプレイに表示されます。

コントローラーを操作すると、2種類のデータが表示されます：

Exp	Val: 127
CH: User	CC: 11

プレイモード：エクスプレッションペダルの操作時

エクスプレッションペダルやモジュレーションホイールを操作した場合、その名前とその時の値が上段に、割り当てられているMIDIメッセージの種類が下段に表示されます。

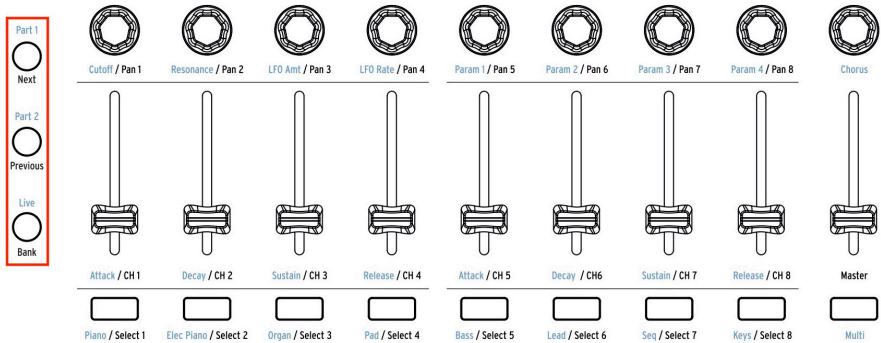
フェーダーやエンコーダー、Selectボタンの場合は表示フィールドが増えます。



User Editモード：エンコーダー1、バンク1が選択されている状態

これらのコントローラーを操作した場合、コントローラーの名称とバンク番号、送信しているメッセージの値が上段に、MIDIチャンネルとメッセージの種類が下段に表示されます。

5.4. コントローラーバンクの選択



上図の左側にあるコントロールボタンは、エンコーダー、フェーダー、ボタンのバンク選択に使用します。選択したバンクに対応するコントロールボタンが点灯します。

5.5. プログラムチェンジメッセージ

Userモードでは、**Category**、**Preset**、**センターノブ**、**左右の矢印ボタン**からプログラムチェンジメッセージを送信できます。

Categoryや**Preset**ボタンを押すと、ディスプレイの上段に"Bank Nbr" (バンクナンバー) が、下段に"Prog Nbr" (プログラムナンバー) が表示されます。

バンクナンバーは**Category**ボタンで選択し、プログラムナンバーは**Preset**ボタンで選択します。**センターノブ**で各バンクとプログラムをスクロールでき、**センターノブ**を押すとプログラムチェンジが送信されます。

別の方法として、**左右の矢印ボタン**でバンクやプログラムを選択することもできます。上記の方法とは異なり、ボタンを押した時点でプログラムチェンジが送信されます (センターノブの場合はノブを押さない限りプログラムチェンジを送信しません)。

5.6. User Editモード

Userモードボタンを約1秒長押しするとUser Editモードに入ります。次に以下の項目からエディットしたいコントローラーを選択します：

- フェーダー、エンコーダー、またはSelectボタン
- DAWコマンドボタン/Userボタン
- パッド
- ペダル
- ホイール
- キーボードのキー
- CVインに入力したCV

上記の中からエディットしたい項目を選択してからセンターノブを回すと、ディスプレイの下段にエディットできるパラメーターが表示されます。

エディットしたいパラメーターが見つかりましたら、センターノブをクリックしてからセンターノブを回すとそのパラメーターの値が変化します。センターノブをもう一度クリックするとパラメーター選択画面に戻ります。

5.6.1. エディットしたいコントローラーの選択

エディットしたいコントローラーを切り替える方法には、次の2種類があります：


- エディットしたいコントローラーを操作する。または、
- **左右の矢印ボタン**を押してコントローラーを選びます。

5.6.1.1. CVコントロールの選択


エディット項目の中には上記の選択操作を組み合わせる必要があるものもあります。例えば、以下の項目は次の操作で選びます：

- **CV Mod Input**：Selectボタン9を押してから右矢印ボタンを1回押します。
- **CV Pitch/Gate/Mod Outputs**：Aux 3ペダルを選択してから右矢印ボタンを1回押します。

上記のような操作をしても、別々にエディットしたいコントローラーを操作すればそのコントローラーのエディットに切り替わり、センターノブを回してエディットしたいパラメーターを選択でき、センターノブをクリックしてそのパラメーターのエディットができます。

 ！: キーボードの最高部1オクターブのキーはUser Editモードのパラメーターグループやその他の機能へのショートカット [p.50]になっています。

User EditモードのすべてのパラメーターはMIDI Control Center [p.65]でエディットすることもできます。

 ！: エディットをしたら、こまめに保存 [p.56]しましょう。

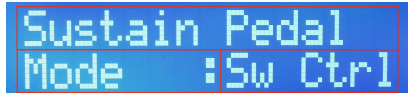
5.6.2. User Editモードでのディスプレイ

コントローラーの中にはすべてのエディットパラメーターを一度に表示しきれないものもあります。以下の2種類のコントローラーの例では、赤枠内の表示がそれぞれ変化します。コントローラー名が上段に表示され、センターノブを回すとパラメーターとその設定値が下段に表示されます。

上段に表示されるコントローラー名は次の操作をすると切り替わります：

- 選択したいコントローラーを操作する。または、
- 左右の矢印ボタンを押して選択します。

5.6.2.1. User Editの例1：サステインペダル



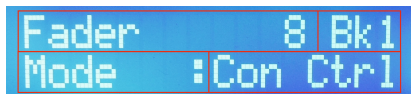
User Editモード：サステインペダルを選択した状態

サステインペダルは1つだけです（モジュレーションホイールやエクスプレッションペダルなども同様です）ディスプレイの上段にはコントローラー名のみが表示されます。

下段にはモードやMIDIチャンネル、オプションなどのパラメーターの中から選択したものが表示されません。この時、次のような操作でエディットします：

- センターノブを回してエディットしたいパラメーターを探します（下段左の赤枠内の表示が変わります）。
- センターノブをクリックしてパラメーターを選ぶと、その設定値が表示されます（下段右の赤枠）。
- センターノブを回して設定値を変更します。
- センターノブをクリックして変更を確定して、次にエディットしたいパラメーターを選びます。

5.6.2.2. User Editの例2：フェーダー



User Editモード：フェーダー8を選択した状態

フェーダーやエンコーダー、Selectボタンのように1バンクに9個のコントローラーがあるものは、上段左の赤枠にコントローラー名、バンク番号がその右に表示されます。バンクは3つありますので実質27個のフェーダーなどがあるということになります。

コントローラーの選択方法は次の通りです：

- 選択したいコントローラーを操作します (上段左の赤枠内の表示が変わります)。
- Controlボタン (Part 1, Part 2, Live) を押してバンクを選択します (上段右の赤枠)。

ディスプレイ下段にはモードやMIDIチャンネル、オプションなどのパラメーターが表示され、次のような操作ができます：

- センターノブを回してエディットしたいパラメーターを探します (下段左の赤枠内の表示が変わります)。
- センターノブをクリックしてパラメーターを選ぶと、その設定値が表示されます (下段右の赤枠)。
- センターノブを回して設定値を変更します。
- センターノブをクリックして変更を確定して、次にエディットしたいパラメーターを選びます。



♪: バンク1～3はControlボタン (Part 1, Part 2, Live) を押して切り替えます。センターノブでは切り替わりませんのでご注意ください。


5.6.3. キーボード

KeyLab MkIIのキーボードにはいくつかの設定パラメーターがあります。常にMIDIノートデータを送信するのはもちろんですが、その他にも次のようなオプションがあります：

- スプリットモードのオン/オフとスプリットポイント
- Part 1とPart 2 (スプリット時) のそれぞれのMIDIチャンネル
- キーボードのペロシティカーブ (3種類の中から1つを選択)
- Part 1とPart 2のチャンネルプレッシャー (アフタータッチ) のオン/オフ
- Part 1とPart 2のオクターブシフトとトランスポーズ設定
- Part 1またはPart 2でのChordモードのオン/オフ

5.6.3.1. Userモード：Part 1 vs. Part 2

スプリットモードがオフの場合、Part 1のMIDIチャンネルで各種MIDIメッセージが送信されます。オンの場合はPart 1とPart 2で別々のMIDIチャンネルを設定できます。言い換えれば、Part 2はスプリットモードがオンの場合にのみ使用できるということになります。

 **!** User Editモードに入っている状態でキーボードの最高部1オクターブから下のキーを押すと、キーボードの各種設定をエディットできます。また、最高部1オクターブの各キーはキーボード関連の各種パラメーターへのショートカットになっています (後述)。

5.6.3.2. キーボードスプリット：Userモード

キーボードでスプリットポイントを設定するには、**User**ボタンを点滅するまで長押しして**User Editモード** [p.46]に入る必要があります。その後の操作手順は次の通りです：

- キーボードの最高部1オクターブよりも下のキー（どれでもOKです）を押します。
- センターノブを回してSplitModeパラメーターページを選択します。
- センターノブをクリックしてパラメーターの値を変更できる状態にします。
- センターノブを回して値をOnにします。
- センターノブをクリックしてパラメーター選択に戻ります。
- センターノブを回してSplitPointパラメーターページを選択します。
- センターノブをクリックしてパラメーターの値を変更できる状態にします。
- センターノブを回して値（スプリットポイント）を変更します。
- センターノブをクリックしてパラメーター選択に戻るか、他のエディットしたいコントローラーを選択します。
- 設定を変更しましたらこまめに保存しましょう。

！ UserモードではPart 1はスプリットポイントの右側（高音側）になり、Part 2は左側（低音側）になります。これはAnalog Labモードの**スプリットモードのパート割り当て** [p.31]とは逆になりますのでご注意ください。

5.6.3.3. キーボードショートカット・チャート

以下は49/61鍵バージョンのキーボードショートカットです：

モード	名称	ボタン/キー操作	機能 [2]
すべて [1]	MIDI Ch	MIDI Ch + 最低音から16個のキーのうち1つ	ユーザーMIDIチャンネルの設定
User Edit [3]	Global [p.21]	最高部1オクターブのDのキー	キーボード/パッド/フェーダーのレスポンス等の設定
	Store	最高部1オクターブのEのキー [2]	ユーザープリセットの保存ページに入る
	Velo Curve	最高部1オクターブのFのキー [2]	キーボードのベロシティカーブ設定
	Name	最高部1オクターブのF#のキー [2]	エンコーダーとフェーダーのリネーム
	Mode	最高部1オクターブのGのキー [2]	コントロール機能の選択またはオフ
	Option	最高部1オクターブのG#のキー [2]	コントロール機能のレスポンス選択（ゲート/トリグル等）
	MIDI Ch	最高部1オクターブのAのキー [2]	選択したコントローラーのMIDIチャンネル設定
	CC	最高部1オクターブのBbのキー [2]	MIDI CC#またはノートナンバーの選択
	Min LSB	最高部1オクターブのBのキー [2]	選択したコントローラーの最低値設定
	Max MSB	最高部1オクターブのCのキー [2]	選択したコントローラーの最高値設定

[1] Analog Lab, DAW, Userモード

[2] コントローラーの機能の違いにより選択できないショートカットもあります。

[3] これらのパラメーターにアクセスするには、最初にUserモードボタンを約1秒長押ししてUser Editモードに入ります。

以下は88鍵バージョンのショートカットです：

モード	名称	ボタン/キー操作	機能 [2]
All [1]	MIDI Ch	MIDI Ch + 最低音から16個のキーのうち1つ	ユーザーMIDIチャンネルの設定
User Edit [3]	Global [p.21]	Bb3のキー	キーボード/パッド/フェーダーのレスポンス等の設定
	Store	C4のキー [2]	ユーザープリセットの保存ページに入る
	Velo Curve	C#4のキー [2]	キーボードのベロシティカーブ設定
	Name	D4のキー [2]	エンコーダーとフェーダーのリネーム
	Mode	D#4のキー [2]	コントロール機能の選択またはオフ
	Option	E4のキー [2]	コントロール機能のレスポンス選択 (ゲート/トグル等)
	MIDI Ch	F4のキー [2]	選択したコントローラーのMIDIチャンネル設定
	CC	F#4のキー [2]	MIDI CC#またはノートナンバーの選択
	Min LSB	G4のキー [2]	選択したコントローラーの最低値設定
	Max MSB	G#4のキー [2]	選択したコントローラーの最高値設定

[1] Analog Lab, DAW, Userモード

[2] コントローラーの機能の違いにより選択できないショートカットもあります。

[3] これらのパラメーターにアクセスするには、最初にUserモードボタンを約1秒長押ししてUser Editモードに入ります。

5.6.4. ホイール

キーボードの左側には2種類のホイールがあり、それぞれ別の機能があります。

5.6.4.1. ピッチホイール

ピッチホイールはMIDIピッチベンドメッセージを送信します。別のMIDIメッセージに再割当てすることはできませんが、ピッチベンドがかかるパート (Part 1またはPart 2または両方) を選択できます。

5.6.4.2. モジュレーションホイール

モジュレーションホイールは通常、MIDI CC#1を送信しますが、[MIDI Control Center \[p.65\]](#)を使用して別のCCナンバーに再割当てすることができます。どのCCナンバーに割り当てた場合でもPart 1、Part 2または両方からMIDIメッセージを送信できます。


5.6.5. パッド

 ①: パッドの隣にあるコード機能のボタン (Chord Memory, Chord Transpose) のいずれがオンの場合、パッドからはそのパッドにメモリーされているコードのMIDIノートデータのみが送信されます。

各パッドは次のMIDIメッセージを任意のMIDIチャンネルまたはユーザーチャンネルで送信することができます：

- 任意のMIDIノートナンバー (ベロシティとポリフォニックアフタータッチ付き)
- 任意のMIDI CCの2つの値を切り替えて送信 (トグルまたはゲート動作)
- MIDIプログラムチェンジ/バンクセレクトメッセージ

パッドで別のユーザープリセットを切り替えることもできます。例えば、この動作を2つのパッドに割り当てると、ユーザープリセットを次のプリセット/前のプリセット (順方向/逆方向) というように切り替えることができます。

 ②: MIDI Control Center [p.65]を使用して、パッドごとの点灯色を設定することができます。例えば、ノートデータはブルー、プログラムチェンジはグリーン、というように機能別に色分けし、暗いステージなどでも各パッドの機能を瞬時に見分けることもできます。

5.6.6. DAW Command / Userボタン

Userモードでは、**DAW Command**ボタンには次の2種類の機能があります：

- DAW：DAWコマンドの送信 (詳しくは[DAWプリセットコマンドチャート \[p.65\]](#)をご覧ください)
- User：ソフトウェアのパラメーターにアサインできるMIDIスイッチの設定

上記のモードは、KeyLab MkII本体の[グローバル設定 \[p.21\]](#)か、MIDI Control Centerの[Device Settings \[p.79\]](#)タブで切り替えることができます。

DAWコマンドの送信時 (DAWモード) の場合、各ボタンの機能は変更できません。

汎用MIDIスイッチとして使用する場合 (Userモード)、アサインできる機能は次の通りです：

- 任意のMIDI CCの2つの値 (トグルまたはゲート動作)
- MIDIプログラムチェンジ/バンクセレクトメッセージ

MIDIメッセージのアサインはボタンごとに設定でき、他のコントローラーと同様、フロントパネルでの操作または[MIDI Control Center \[p.65\]](#)で設定できます。

5.6.7. 3バンク分のコントローラー

エンコーダー、フェーダー、ボタンはそれぞれ9個ずつあり、合計27個のコントロールができます。さらに、このセットを3バンク分設定できますので、実質81個ものコントローラーがあることになります。バンクはこのセクションの左側にある3つのボタンで切り替えます。

そのため、このセクションのコントローラーに機能を割り当てる時には、他のコントローラーよりも多くのフィールドが**ディスプレイ** [p.44]に表示されます (これはこのセクションの機能アサインが3バンク分あるためです)。

アサイン可能な機能の中にはSelectボタンの点灯色などのように、**MIDI Control Center** [p.65]でのみ設定可能なものもあります。

5.6.7.1. エンコーダー

エンコーダーは次のようなMIDIメッセージを任意のMIDIチャンネルまたはユーザーチャンネルで送信できます：

- MIDI CCメッセージ (値のレンジ設定可能)
- RPN/NRPNメッセージ (値のレンジ設定可能)

他にも次のような重要な機能があります：

- メッセージ送信の絶対/相対モードの選択
- エンコーダーごとのリネーム機能
- エンコーダーを何周回すと最低値/最高値に到達するかの加速度を個別に設定できます。これは**MIDI Control Center** [p.65]で設定できます。

5.6.7.2. フェーダー

フェーダーは次のようなMIDIメッセージを任意のMIDIチャンネルかユーザーチャンネルで送信できます：

- MIDI CCメッセージ (値のレンジ設定可能)
- RPN/NRPNメッセージ (値のレンジ設定可能)

他にも次のような重要な機能があります：

- ノーマルまたはドロワーモード (値が変化する方向の正逆反転)
- フェーダーごとのリネーム機能
- フェーダーを動かした時の値の挙動設定 (動かした時点でその位置の値に瞬時に変化するジャンプモード、または設定値の位置に達するまでフェーダーを動かしても値が変化しないビックアップモード) の選択。これは**KeyLab MkIIのフロントパネル操作** [p.21]または**MIDI Control Center** [p.65]で選択できます。

5.6.7.3. ボタン

Selectボタンは次のようなMIDIメッセージを任意のMIDIチャンネルまたはユーザーチャンネルで送信できます。または、内蔵ユーザープリセットの選択に使用できます：

- MIDI CCの2つの値
- RPN/NRPNメッセージ
- MIDIプログラムチェンジ/バンクセレクトメッセージ、または、
- 内蔵ユーザープリセットの選択



♪: 10個のプリセットそれぞれにボタンを含むコントローラーのアサインを保存できます。Selectボタンでユーザープリセットを選択したい場合、10種類のユーザープリセットと同じアサインを作っておくことで、どのプリセットを使用しているもボタンを押すだけでプリセットをいつでも選択できます。

MIDI Control Center [p.65]を使用して、ボタンごとの点灯色を設定できます。例えばMIDI CCメッセージにはブルー、プログラムチェンジにはグリーンというように、機能別に点灯色を振り分けることでステージ上などでも瞬時に見分けることができます。

5.6.8. ペダル/CV端子

5.6.8.1. CVイン



♪: User EditモードでCVコントロールを素早く選択する方法は、[CVコントロールの選択 \[p.46\]](#)をご覧ください。

このリアパネルの端子を使用して、入力したCVをMIDIメッセージに変換してDAWで利用することができます。CVの電圧レンジは出力するMIDIメッセージのレンジと合うように設定できます。詳しくは[CV/Gateチャプター \[p.62\]](#)をご覧ください。

5.6.8.2. ペダル

5つのペダル端子はいずれもフットスイッチまたはエクスプレッションペダルが使用でき、次のようなコントロールができます：

- スイッチ動作のコントロール：MIDI CCの2つの値 (トグルまたはゲート動作)
- プログラムチェンジ：MIDIプログラムチェンジ/バンクセレクトメッセージ
- コントロール：MIDI CC (値のレンジ設定可能)

5.6.8.3. CVアウト

4つのCVアウトにはそれぞれ固有の機能があります。詳細はCV/Gateチャプター [p.62]でご紹介しますので、ここでは概略のみご紹介します：

- Pitchアウト：MIDIノートナンバーをCVに変換
- Gateアウト：MIDIノートオン/オフメッセージをゲート信号に変換
- Mod 1：デフォルト設定ではMIDIベロシティメッセージをCVに変換しますが、別のソースを選択することもできます。
- Mod 2：デフォルト設定ではモジュレーションホイールの値をCVに変換しますが、別のソースを選択することもできます。

5.7. 機能固定のコントローラー


フロントパネルのほとんどのボタン/パッド/フェーダー/エンコーダーは様々なタイプのMIDIメッセージを割り当てられますが、中には機能固定のコントローラーもあります。以下はそのリストです：

- Chord / Transpose / Octave - / Octave + の各ボタン
- Pad / Chordモードボタン
- 3つのControlボタン
- Transportボタン
- Category / Preset / 左矢印 / 右矢印の各ボタン
- センターノブ
- Part 1 / Part 2 / Live (この3つはコントローラーのバンク選択に使用します)
- MIDI Chボタン：キーボードと併用してユーザーチャンネル選択にのみ使用します




♪：トランスポートボタンは常にMCU/HUIプロトコルによるコマンドを送信し、どのモードに入っている場合でも機能は変わりません。

5.8. プリセットの保存

 !: 以下の操作例は10種類のユーザープリセットのうち1つを上書きするものです。プリセットを書き換えたくない場合は、事前にMIDI Control Centerを使用してデータのバックアップを取ってください。

こまめな保存はデータ損失を防ぐ最良の方法です。ここでは、コントローラーの機能割り当てをした後でユーザープリセットを保存する方法をご紹介します。すでにUser Editモードに入っている場合はキーボードショートカットが使えますので、キーボードの最も高いEを押してユーザープリセットの保存ページに入り、次の操作をします。

1. 保存ページの最初の画面は、これから保存するプリセットを選ぶ画面になっています。
2. センターノブを回して保存するプリセット番号を選びます。
3. センターノブをクリックするとこれから保存するプリセットをリネームできます。センターノブを回して文字を選び、左右の矢印ボタンで前後の文字に移動します。
4. リネームが終わりましたらセンターノブをクリックして保存を実行します。
5. 画面表示がUserモードのトップに移り、保存したプリセットが選択された状態になります。

 !: User Editモードで保存ページに入る方法がもう1つあります：Userボタンを押すとエディットした内容を保存しても良いかどうかを聞くメッセージが表示されます。保存する場合はセンターノブをクリックして、上記の操作を行います。

6. CHORDモード

KeyLab MkIIはワンフィンガーでキーボードやパッドを使ってコード演奏ができるChordモードを内蔵しています。

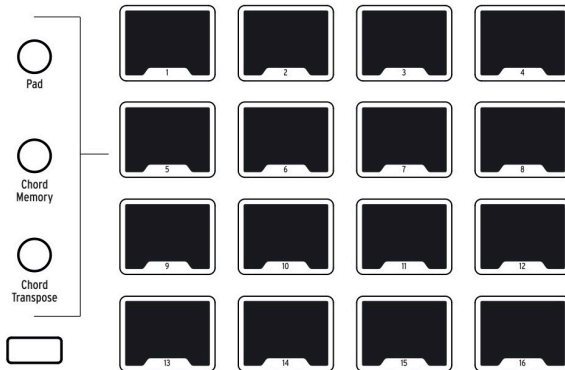
6.1. Chordモードのオーバービュー

キーボードで演奏するコードのセットや呼び出しは、[Chordボタン \[p.59\]](#)を使用します。



Chord

Chordボタンでセットしたコードは、KeyLab MkIIの電源を切ると失われてしまいますが、[パッド \[p.59\]](#)には2つのChordモード ([コードメモリー \[p.60\]](#)と[コードトランスポーズ \[p.60\]](#))の合計で32種類のコードを保存しておくことができます。



パッドの左側にある3つのボタンでパッドのモード切り替えができます。下2つのボタンはパッドでコードを演奏するコードメモリーとキーボードで演奏するコードトランスポーズの各モードでコードのセットや呼び出しを行います。

6.1.1. コード演奏の3つの方法

以下は各PadモードでのChordボタンとキーボード、パッドの関係をまとめたものです：

- **Padモード：**
 - Chordボタンで1種類のコードをセットでき、キーボードでコードを平行移動することができます。
 - パッドからはMIDIノート、MIDI CC、プログラムチェンジなどの送信ができます。
 - Chordボタンをオフにすればキーボードで通常の演奏ができます。
 - Chordボタンでセットしたコードは、本機の電源をオフにすると消去されます。
- **コードメモリーモード：**
 - Chordボタンで1種類のコードをセットでき、キーボードでコードを平行移動することができます。
 - パッドには最大16種類のコードをメモリーでき、パッドを押すことでコードを発音させることができます。
 - Chordボタンをオフにすればキーボードで通常の演奏ができます。
- **コードトランスポーズモード：**
 - Chordボタンをオンしておく必要があります。
 - パッドに最大16種類のコードをメモリーできます。
 - パッドを押してコードの種類を選び、キーボードでそのコードを平行移動することができます。

コードメモリーとコードトランスポーズの両モードでセットしたコードは、ユーザープリセットに保存できます。また、Analog LabとDAWの各モードでもそれぞれ最大32種類のコードをセットできますので、3モード合計で96種類ものコードが使用できます。

ただし、Chordボタンのオン/オフとChordボタンでセットしたコードはユーザープリセットには保存されません。そのため、ユーザープリセットを切り替えてもChordボタンのオン/オフは変わりません。

6.1.2. 動作の仕組み


コードをセットした時の最低音はそのコードのルートになります。例えば、G2, C3, E3の音をセットした場合、そのコードは聴感上Cメジャーの第2転回形ですが、ChordモードでキーボードのC3を弾くと、C3, F3, A3が発音します。これは本機が最初にセットしたコードをそのまま5半音 (4度) 上に平行移動させているからです。元のCメジャーを発音させたい場合は、G2を弾く必要があります。

別の例として、Chordモードでルートを最低音にした5度を使いたいとします。この場合、次のように操作することで思い通りの演奏になります：

- Chordボタンを押しながら…
- キーボードでCとその上のGを弾きます。
- Chordボタンを放してコードのセットを終わります。
- キーボードでCを弾くとCとその上のGが発音します。
- キーボードでEを弾くとEとその上のBが発音します。


6.2. Chordモード：キーボード

キーボード用のChordモードはChordボタンでオン/オフを切り替えます。

 **i**：キーボードが**スプリットモード** [p.50]に入っていない場合、Chordボタンがオンの時はキーボードは1音のみ(モノフォニック)の演奏になります。しかし、パッドでコードメモリーモードを選択し、Chordボタンがオフの場合は、複数のパッドやキーボードを同時に演奏してもそのままポリフォニックで発音できます。

6.2.1. Chordボタンでコードをセットする

Chordボタンを押しながら(この時ボタンが点滅します)6ボイスまでのコードをキーボードでセットします。Chordボタンを放すとセットが完了し、キーボードで弾くとセットしたコードを弾いたキーに応じて発音します。セットしたコードの構成音はディスプレイに表示され、キーボードで弾いたキーに応じてトランスポーズされます。

 **i**：セットしたコードのすべての構成音のノートデータはUSBとMIDIから送信されます。

この方法の場合、Chordボタンを放すまではコードのセットができますので、指が6本必要なコードや片手で押さえられないほど離れた音をセットしたい場合は、Chordボタンを押したままの状態ですべてのキーを押して最後にChordボタンを放せばセットできます。セットできるコードは最大6ボイスまでです。

 **i**：Chordボタンでセットしたコードは、本機の電源をオフにすると消去されますが、コードメモリーモードやコードトランスポーズモードで**パッドには保存できます** [p.60]。

6.3. パッド：2つのChordモード

パッドの場合、**Chord Memory**と**Chord Transpose**ボタンでそれぞれのモードに入りますが、両者の機能は大きく異なります。どちらのモードも3つのメインモード(Analog Lab, DAW, User)で使用でき、最大32種類のコード(コードメモリーとコードトランスポーズで16種類ずつ)を使用できます。

各Chordモードにはプリセットコードがあらかじめメモリーされていて、すぐに曲作りなどができますが、プリセットコードの代わりにオリジナルのコードをセットしてメモリーさせておくことも可能です。

コードのセットと保存方法はどちらのChordモードでも同じですので、次のセクションで両モードをまとめてご紹介します。ですが、使い方はそれぞれのモードで異なります。それぞれのモードの違いにつきましては、**コード演奏の3つの方法** [p.58]をご覧ください。

6.3.1. Pad Chordモード：色々な使い方

6.3.1.1. コードメモリー機能

コードメモリーで最も典型的な使い方はパッドを押してコードを演奏することでしょう。両手でパッドを押し替えてコードを次々と演奏することもできますし、左手でパッドを押してコードをトリガーさせ、右手はキーボードでメロディを弾くといったこともできます。

コードは必ずしも3音以上必要ということはありません。分厚いプラスセクションで見られるようなオクターブ重ねの2音をセットしてパッドで演奏するということもできます。

6.3.1.2. コードトランスポーズ機能

コードトランスポーズモードは16種類までのコードをパッドにセットできる点はコードメモリーモードと同じです。しかし、このモードの場合、パッドはキーボードで弾くコードを呼び出すために使用しません。また、このモードではChordボタンをオンにしておく必要があります。

以上をふまえて、コードトランスポーズモードでできることをご紹介します：

- シンプルなコードから複雑なコードまで、最大6音までのコードをセットできます。
- キーボードで弾くリードサウンドに対して、パッドを押し替えて色々なハーモニーを付けることができます。
- ギターなどの色々なバレー（セーハ）コードを複数のパッドにセットして、ワンフィンガーで色々なパワーコードを演奏できます。

コードトランスポーズモードではパッドでコードの種類を呼び出して、キーボードで単音を弾いて演奏します。ここがコードメモリーモードと大きく異なるポイントです。

6.3.2. パッド用コードのセット方法

以下の手順は3つのメインモード (Analog Lab, DAW, User) でも、コードメモリーまたはコードトランスポーズどちらのモードでも共通です：

1. コードメモリーまたはコードトランスポーズどちらかのモードに入ります（モードでパッドの点滅の仕方が変わります）。
2. Chordボタンを押したまま…
3. パッドを押して選びます：
 - コードメモリーモードの場合、選択したパッドがグリーンで点灯し、その他は点滅します。
 - コードトランスポーズモードの場合、選択したパッドがラベンダー色で点灯し、その他は消灯します。
 1. すでにセットされているコードをチェックします。
 2. キーボードでコードを押さえます（コードの構成音を全部同時にでも1音ずつでもOKです）。
 3. Chordボタンを放します。
 4. パッドが点滅してコードがセットされたことを表示します。
 5. 他のパッドにもコードをセットする場合は、上記のステップ2～7の操作を繰り返します。

ここまでは両モードとも操作は同じですが、コードの演奏方法は次のように異なります：

- **コードメモリーモード**では、上記ステップ3でセットしたパッドを押すとコードが鳴ります。この場合、Chordボタンのオン/オフに関係なく、コードを発音します。
- **コードトランスポーズモード**では、上記ステップ3でセットしたパッドを押すとコードの種類のみが選択され、キーボードを弾いて初めてコードが鳴ります。このモードでは、Chordボタンをオン(点灯)にしておく必要があります。



♪: どちらのモードでも、コードをセットした時の最低音よりも低い音で発音させた場合、ディスプレイには元のセット時の音名ではなく、トランスポーズされた音名が表示されます。

6.3.3. コードトランスポーズモードの要点

コードトランスポーズモードはコードメモリーモードと動作が異なります。以下は知っておくと便利なコードトランスポーズモードのポイントです：

- コードトランスポーズモードをオンにするには、Chordボタンをオンにする必要があります。
- 上記のステップ3で選択したパッドを押してキーボードの中央Cを弾くと、セットした時と同じコードがトランスポーズされずに発音します。
- 中央Dを弾くとセットしたコードが1音(2半音)高くトランスポーズして発音します。その他のキーを弾いた場合も、中央Cからのインターバルに応じてコードをトランスポーズして発音します。
- 別のパッドに別のコードをセットした場合、パッドを押し替えてキーボードの同じキーをその都度弾いてコードを切り替えて演奏できます。

例えばパッド1にC7のコードを、パッド2にCm7のコードをセットしたとします。キーボードの中央Cを弾いてパッドを押し替えると、2つのコードを弾き分けることができます。

7. CV / GATE / MODの接続

DAWやプラグインソフトウェア、MIDI機器がコントロールできるだけでなく、KeyLab MkIIがモジュラーシンセサイザーとのインターフェイスとしても使えればさらにクールなのでは？とArturiaのエンジニアは考えていました。

それでリアパネルに多くのCV端子を装備して、本機がほぼすべての音楽制作テクノロジーのインターフェイスとして使えるように設計しました。入力したCVをUSB/MIDIメッセージに変換してDAWに取り込み、Analog Labのようなプラグインシンセサイザーのモジュレーションソースに利用することも可能です。

入力だけでなく、フロントパネルでの操作やペダル操作からCVを出力してモジュラーシンセサイザーにCVインに接続することもできます。

7.1. CVイン端子

CVイン端子に入力したCVをモジュレーションソースに利用できます。User Editモード [p.46]では、入力したCVを任意のMIDI CC#に変換する設定ができ、指定のMIDIチャンネルで、設定した値の範囲で、まるでエクスプレッションペダルを操作しているかのように自然にMIDI CCとして出力することができます。

CVから変換した信号はMIDIコネクターやUSBポートから出力され、外部MIDI機器やプラグインなどのモジュレーションソースとして利用できます。

入力するCVのソースはArturia MatrixBruteやMiniBrute 2などのセミモジュラーアナログシンセサイザーや、その他のシンセサイザーであることが一般的でしょう。ユーロラックモジュラーも素晴らしいソースの1つで、複数のモジュールを使って複雑な動きのCVを本機に入力してDAW環境のモジュレーションソースにできます。

メーカーによってCVの電圧レンジが異なることがあります。そのためKeyLab MkIIとMIDI Control Center [p.65] (MCC) では入力する機器に応じて電圧レンジを設定することができます。設定可能レンジは1~10Vで、ほぼすべてのアナログシンセサイザーからのCVに対応できます。

7.1.1. パラメーター (User Editモード)

端子名/User Editモードでの名称	パラメーター	レンジ
CV In / CV Mod In	MIDI Ch	1-16, User, Part 1, Part 2
	CC	0-127
	Max/MSB	0-127
	Min/LSB	0-127
	Volt range	1-10 V

7.2. Pitch/Gate/Mod端子

Pitch/Gate/ModアウトはKeyLab MkIIからのデータをCVに変換し、モジュラーシンセサイザーなどの外部機器を発音させたり、パラメーターをコントロールすることができる端子です。

このアウトブックセクションの4つの端子は使用目的がそれぞれ異なります。各端子の機能は、User Editモードで次のページの表 [p.64]にあるオプションを選択することで設定できます。

7.2.1. Pitchアウト

この端子の典型的な使い方は、接続した機器の音程コントロールです。KeyLab MkIIのキーボードで弾いたMIDIノートナンバーに応じてCVが出力されます。この端子はモノフォニック (単音) ですので、出力されるCVの優先度を設定する必要があります。低音優先の**Low**、高音優先の**High**、後着優先の**Last**から選択できます。

7.2.2. Gateアウト

キーボードのノートオン/オフに応じてトリガー (ゲート) 信号がこの端子から出力されます。一般的にはPitchアウトとペアで使用します。

この端子からの出力信号は、大別して2種類の信号を選択できます。接続する機器のトリガー仕様に合わせて設定できます。

7.2.3. Mod 1

この端子からはCVが出力され、最も典型的な使用法はVCA (ボルテージコントロールドアンプリファイア) のコントロールです。本機のデフォルト設定では、この端子はキーボードのペロシティに応じたCVが出力されますが、User Editモード [p.46]またはMCC [p.65]で変更できます。例えば、フェーダーやエンコーダーの動きをCVとして出力させることも可能です。また、出力するCVの上限電圧も設定できます。

7.2.4. Mod 2

この端子もCVを出力します。一般的にはVCF (ボルテージコントロールドフィルター) のカットオフフリケンシーをコントロールします。本機のデフォルト設定では、モジュレーションホイールの動きに応じたCVを出力しますが、User Editモード [p.46]またはMCC [p.65]で変更できます。例えば、フェーダーやエンコーダーの動きをCVとして出力させることも可能です。また、出力するCVの上限電圧も設定できます。

7.2.5. パラメーター (User Editモード)

7.2.5.1. CV Pitch

端子名 / User Editモードでの名称	パラメーター	レンジ
Pitch Out / CV Pitch	Mode	Volt/Oct, Hz/Volt
	BaseNote 0V [a]	フルMIDIノートレンジ (デフォルト=C-2)
	BaseNote 1V [a]	フルMIDIノートレンジ (デフォルト=C0)
	Note Priority	Low / High / Last
	Bend range	1-24半音
	Assign	Part 1, Part 2

[a] この2つのオプションは同時選択できません。

7.2.5.2. CV Gate

端子名 / User Editモードでの名称	パラメーター	レンジ
Gate Out / CV Gate	Mode	S-Trig, V-Trig (5V, 12V)

7.2.5.3. CV Mod Out 1

端子名 / User Editモードでの名称	パラメーター	レンジ
Mod 1 / CV Mod Out 1	Assign	自由に選択できます (デフォルト：ペロシティ)
	Volt range	1-10 V

7.2.5.4. CV Mod Out 2

端子名 / User Editモードでの名称	パラメーター	レンジ
Mod 2 / CV Mod Out 2	Assign	自由に選択できます (デフォルト：MODホイール)
	Volt range	1-10 V

8. MIDI CONTROL CENTER

KeyLab MkIIはよく使うコントローラーをすぐに使えるように設計されています。フロントパネルでの設定エディットも素早く簡単に行なえますが、MIDI Control Center (MCC) を使うことでさらにクイックなエディットができます。本機がコンピュータと接続している場合、お使いのDAWなどのソフトウェアやインストゥルメントに合わせてMCCで本機の機能を設定できます。

8.1. MIDI Control Centerとの接続

MCCをダウンロードしてインストールが完了しましたら、KeyLab MkIIをコンピュータに接続してMCCを起動します。

MCCがKeyLab MkIIと自動的に接続し、メイン画面に本機の画像が表示されます。



! : 複数のArturia機器をコンピュータに接続している場合、MCCのDeviceセクションにあるドロップダウンメニューからエディットしたい機器を指定できます。

これでKeyLab MkIIがMCCでエディットできる状態になりました。

8.1.1. デバイスメモリー

MCCのデバイスメモリー(Device Memories) セクションにはKeyLab MkIIのユーザープリセット10種類に対応する10種類のメモリーと、Analog LabとDAWモード用の読み出し専用メモリーの2種類が表示されます。

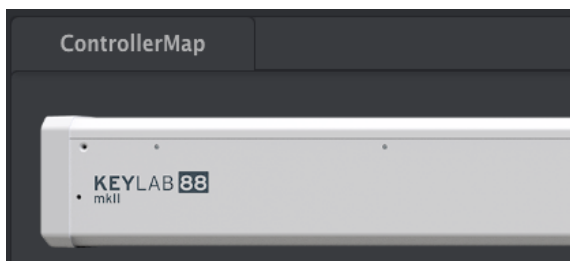
- **Analog Lab** : KeyLab MkIIでAnalog Labを使用するためのメモリーです。これは読み出し専用でエディットできません。
- **DAW** : KeyLab MkIIでDAWをコントロールするためのメモリーです。読み出し専用ですのでエディットできません。
- **User 1-10** : KeyLab MkIIのユーザープリセット1~10に相当するメモリーで、使用方法などに合わせてエディットできます。
- **Store to** : その時選択していたテンプレートをKeyLab MkIIのユーザーエリアに保存する機能です。
- **Recall from** : KeyLab MkIIのユーザープリセットを選択してMCC上に立ち上げてエディットする時に使用する機能です。MCC上でエディットすると、その内容がKeyLab MkIIのユーザープリセットにも反映されて保存されます。

8.1.2. ローカルテンプレート

Local Templateセクションでは、KeyLab MkIIのユーザープリセットをMCCに立ち上げることなく保存したり並べ替えることができます。また、Arturiaユーザーコミュニティでシェアされている既製のコントロールマップをロードすることも可能です。

- **Factory templates** : KeyLab MkIIのデフォルト設定が表示されます。プリセットを工場出荷時の状態に戻したい場合に便利です。
- **User templates** : KeyLab MkIIのユーザープリセットをMCCに立ち上げて表示します。他のユーザーが作成したものをMCCにインポートしてテンプレートにすることもできます。
- **Save** : エディットした内容を同じユーザーテンプレートに上書き保存します。
- **Save As** : 別名のユーザーテンプレートとして保存します。
- **New** : ユーザーテンプレートを新規作成します。
- **Delete** : 選択したユーザーテンプレートを削除します。
- **Import** : 既製のユーザーテンプレートをファイルブラウザからインポート (読み込み) します。インポートしたいテンプレートを選択して**Open**をクリックするとインポートします。
- **Export** : ユーザーテンプレートを指定した場所にエクスポート (書き出し) します。エクスポート先を指定してファイル名を付けてください。

8.2. MCCコントローラーマップ



MCCの画面左コーナーには**ControllerMap**というタブがあります。このタブではKeyLab MkIIのパッドやエンコーダー、フェーダーやキーボード、ペダル端子、CVインとアウトの設定をカスタマイズできます。ここでカスタマイズした設定はKeyLab MkIIのユーザープリセットに保存できます。

エディットしたいパラメーターを選択するには、画面に表示されているフロントパネルやリアパネルのコントローラーや端子をクリックします。



KeyLab MkIIのコントローラーの中には、トランスポートコントロールのようにエディットできないものもあります。

以下のセクションからは、KeyLab MkIIの各コントローラーで選択できるオプションについてご紹介します。画面表示の上から下、左から右という順にご紹介します。

8.3. ホイールのカスタマイズ

 **i**: Part 2や両方のパートはスプリットモードがオンの場合 (KeyLab MkIIのキーボードでPart 2を演奏できる状態) に関係します。

8.3.1. ピッチベンド


ピッチベンドホイールはピッチベンドに機能が固定されていて、他のMIDIメッセージに振り替えることはできません。ピッチベンドはPart 1、Part 2または両方のパートが選択できます。

8.3.2. モジュレーション

- **Mode** : "Control"を選択すると残りのパラメーターが表示され、"Off"を選択するとPart 1とPart 2でMODホイールを使用しない設定になります。
- **Channel** : MODホイールの効果がかかるパートをPart 1、Part 2または両方のパートから選択します。
- **CC Number** : MODホイールから送信するMIDI CC#を設定します。デフォルト設定ではMIDI CC#1ですが、他のMIDI CC#に振り替えることもできます。
- **Min Value** : 画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに値を入力してMODホイールから送信されるMIDIメッセージの最低値を設定します。
- **Max Value** : 画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに値を入力してMODホイールから送信されるMIDIメッセージの最高値を設定します。


8.4. ユーザーチャンネルの選択

ホイールとパッドの間にMIDI **Ch**と書かれた小さなボタンがあります。このボタンをクリックするとKeyLab MkIIのユーザーMIDIチャンネルを設定できます。

 **i**: MIDIチャンネルを"User"に設定したコントローラーがある場合は、MIDI Chボタンで設定したMIDIチャンネルに設定されます。

8.5. パッドのカスタマイズ

モードメニューで各パッドの動作モードを個別に選択できます。各モードには次のようなパラメーターセットが入っています:

 **i**: グローバルのパッドのベロシティ/アフタータッチの各カーブ、バックライトモードは、[Device Settings \[p.79\]](#) タブで設定できます。

8.5.1. Pad Off

パッドがオフになります。パッドを誤ってトリガーさせたくない場合に便利です。

8.5.2. Pad MIDI Note

パッドで通常のMIDIノートを送信する場合にこのオプションを使用します。

- **Color** : パッドを操作した時の点灯色を選択します。
- **Option** : GateまたはToggleを選択します。Gateはパッドを押している間だけオンになり、Toggleはパッドを一度押すとオンまたはオフになり、もう一度押すとオフまたはオンになります。
- **Channel** : パッドのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.67]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **Note** : パッドの操作時に送信されるMIDIノートをC-2~G8の範囲で選択します。

MIDIノートのデフォルト設定は[こちら \[p.13\]](#)をご参照ください。

8.5.3. Padスイッチコントロール

パッドを押してMIDI CC#の2つの値をスイッチ的に送信する場合のオプションです。

- **Color** : パッド操作時の点灯色を選択します。
- **Option** : GateまたはToggleを選択します。Gateはパッドを押している間だけオンになり、Toggleはパッドを一度押すとオンまたはオフになり、もう一度押すとオフまたはオンになります。
- **Channel** : パッドのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.67]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **CC Number** : パッドから送信されるMIDI CC#を0~127の範囲で設定します。ドロップダウンメニューを開くと各MIDI CC#が一般的な使用名付きで表示されます。
- **Off Value** : パッドを放した時に送信するMIDI CC#の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。
- **On Value** : パッドを押した時に送信するMIDI CC#の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。

8.5.4. Padプログラムチェンジ

KeyLab MkIIのパッドからプログラムチェンジをバーチャルインストゥルメントや外部のハードウェアアシセンなどに送信する場合のオプションです。

- **Color** : パッド操作時の点灯色を選択します。
- **Channel** : パッドから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.67]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **Program Number** : パッドを押した時に送信するMIDIプログラムナンバーを0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。
- **Bank LSB** : パッドを押した時に送信するバンクセレクトの下位バイト (MIDI CC#32) を0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。MIDIバンクセレクトメッセージに対応していない機器もありますので、その場合はお使いの機器やソフトウェアインストゥルメントの取扱説明書をご参照ください。

- **Bank MSB**：パッドを押した時に送信するバンクセレクトの上位バイト (MIDI CC#0) を 0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに入力することも可能です。MIDIバンクセレクトメッセージに対応していない機器もありますので、その場合はお使いの機器やソフトウェアインストゥルメントの取扱説明書をご参照ください。

8.5.5. Padプリセットチェンジ

KeyLab MkIIのユーザープリセットをパッドで切り替える場合のオプションです。

- **Color**：パッド操作時の点灯色を選択します。
- **User preset**：ユーザープリセットの番号を1~10の範囲で設定します。

8.6. Userボタンのカスタマイズ

UserボタンはKeyLab MkIIのフロントパネルの**DAW Controls / User**セクションにあります。これらのボタンはDAWモードやAnalog LabモードではDAWのコントロールに使われますが、Userモードでは次の用途を選択できます：

- DAWコマンド、または、
- freely assignable MIDI switches 自由にアサインできるMIDIスイッチ

上記のモード選択は、[Device Settings \[p.79\]](#)タブの**Daw Buttons**フィールドで設定できます。

Device SettingsタブでDAWボタンの機能モードを"User"にセットした場合、各ボタンの機能は**ControllerMap**ページで設定できます。

8.6.1. User button Off

Userボタンの動作をオフにします。Userボタンを必要としないプリセットで誤って操作することを防ぎたい場合に便利です。

8.6.2. Userボタンスイッチコントロール

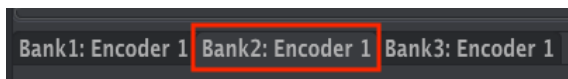
- **Option**：GateまたはToggleを選択します。Gateはボタンを押している間だけオンになり、Toggleはボタンを一度押すとオンまたはオフになり、もう一度押すとオフまたはオンになります。
- **Channel**：ボタンから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合は**MIDI Chボタン [p.67]**で設定したMIDIチャンネルになります。
- **CC Number**：ボタンから送信されるMIDI CC#を0~127の範囲で設定します。ドロップダウンメニューを開くと各MIDI CC#が一般的な使用名付きで表示されます。
- **Off Value**：ボタンを放した時に送信するMIDI CC#の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに値を入力することも可能です。
- **On Value**：ボタンを押した時に送信するMIDI CC#の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに値を入力することも可能です。

8.6.3. Userボタンプログラムチェンジ

- **Channel** : ボタンから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.67] で設定したMIDIチャンネルになります。
- **Program Number** : ボタンを押した時に送信するMIDIプログラムナンバーを0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに値を入力することも可能です。
- **Bank LSB** : ボタンを押した時に送信するバンクセレクトの下位バイト (MIDI CC#32) を0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに値を入力することも可能です。MIDIバンクセレクトメッセージに対応していない機器もありますので、その場合はお使いの機器やソフトウェアインストゥルメントの取扱説明書をご参照ください。
- **Bank MSB** : ボタンを押した時に送信するバンクセレクトの上位バイト (MIDI CC#0) を0~127の範囲で設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに値を入力することも可能です。MIDIバンクセレクトメッセージに対応していない機器もありますので、その場合はお使いの機器やソフトウェアインストゥルメントの取扱説明書をご参照ください。

8.7. エンコーダーのカスタマイズ

エンコーダーには3つのバンクがあり、Bankタブで切り替えることができます。



エンコーダーBank 2を選択した状態

エンコーダーの動作モードは3種類あり、各エンコーダーで個別に設定できます。各モードには次のようなパラメーターセットがあります：

8.7.1. Encoder Off

エンコーダーの動作をオフにします。エンコーダーを必要としないプリセットで誤って操作することを防ぎたい場合に便利です。

8.7.2. Encoder Control

- **Name** : エンコーダーを操作した時にディスプレイに表示される機能名などを入力します。最長12文字まで入力できます。
- **Option** : エンコーダーの反応モードを絶対モードまたは**相対モード** [p.71]に切り替えます。
- **Acceleration** : エンコーダーを素早く回した時にどのように反応するかを次のオプションから選択します：
 - *None* : エンコーダーを回すスピードに反応しません。
 - *Medium* : ある程度反応します。
 - *Fast* : よりクイックに反応します。
 - *1:1* : エンコーダーを回すスピードに正確に反応します。
- **Channel** : エンコーダーから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"にセットすることもでき、この場合は**MIDI Chボタン** [p.67]で設定したMIDIチャンネルになります。
- **CC Number** : エンコーダーから送信されるMIDI CC#を0~127の範囲で設定します。ドロップダウンメニューを開くと各MIDI CC#が一般的な使用名付きで表示されます。
- **Min Value & Max Value** : エンコーダーから送信されるMIDI CC#の最低値と最高値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグで設定できるほか、フィールドに値を入力することも可能です。



♪: Min & Max Valueの設定は、例えばシンセのボリュームなど特定の範囲でだけ変化させたいパラメーターをコントロールしたい場合に便利です。

8.7.2.1. レラティブコントロール

Encoder ControlモードのOptionで"Relative"を選択すると、エンコーダーを回す方向やスピードに応じて割り当てたパラメーターの値を少しだけ変化させることができます。

具体的には、例えばエンコーダーをマイナス方向へ回すと値の61~63が送信され、プラス方向へ回すと65~67の値が送信されます。この時に送信される値はエンコーダーを回すスピードによって変わります。実際の値の設定につきましては、コントロールする機器やパラメーターによって変わりますので、それぞれの説明書等をご参照ください。

"Relative"に設定した場合、エンコーダーを回すとコントロールするパラメーターのその時の値を出発点に値が変化します。この点が、エンコーダーを回した瞬間にパラメーターの値が急激に変化する絶対モード (Absolute) とは異なる点です。

相対モード (Relative) ではエンコーダーの操作時にパラメーターの値が急激にジャンプしませんので、ボリュームやフィルター、エフェクトなどのパラメーターのコントロールに好都合です。

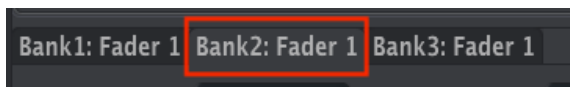
8.7.3. エンコーダーRPN / NRPN

エンコーダーはRPN (レジスタードパラメーターナンバー) とNRPN (ノンレジスタードパラメーターナンバー) の送信も可能です。この2種類のナンバーは様々なメーカーの機器で独自に設定している外部コントロールのためのパラメーター番号です。RPN/NRPNの対応などの詳細は、ご使用の機器の説明書等をご参照ください。

- **Option** : RPN/NRPNを送信するかどうかを設定します。
- **Channel** : 選択したエンコーダーから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で選択します。"User"に設定することもでき、この場合RPN/NRPNはMIDI Chボタン [p.67]で設定したMIDIチャンネルで送信されます。
- **RPN / NRPN LSB** : 選択したエンコーダーから送信されるRPN/NRPNの値の下位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。
- **RPN / NRPN MSB** : 選択したエンコーダーから送信されるRPN/NRPNの上位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。

8.8. フェーダーのカスタマイズ

フェーダーには3つのバンクがあり、Bankタブで切り替えます：



フェーダーBank 2を選択した状態

フェーダーの動作モードは3種類あり、各フェーダーで個別に設定できます。各モードには次のようなパラメーターセットがあります：

8.8.1. Fader Off

フェーダーの動作をオフにします。フェーダーを必要としないプリセットで誤って操作することを防ぎたい場合に便利です。

8.8.2. Fader Control

この動作モードがフェーダーのデフォルト設定で、以下の設定パラメーターがあります：

- **Name** : フェーダーを操作した時にディスプレイに表示される機能名などを入力します。最長12文字まで入力できます。
- **Option** : フェーダーの機能を一般的なフェーダー(Fader) とバーチャルオルガンインストゥルメントのコントロールに便利なドロバー (Drawbar) のどちらかに切り替えます。
- **Channel** : 選択したフェーダーのMIDIチャンネルを1~16の範囲で選択します。"User"に設定することもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.67]で設定したMIDIチャンネルになります。

- **CC Number** : 選択したフェーダーから送信するMIDI CC#を0~127の範囲で設定します。ドロップダウンメニューを開くと各CC#に対応した機能名が表示されます。
- **Min Value & Max Value** : フェーダーから送信するMIDIメッセージの最低値と最高値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。

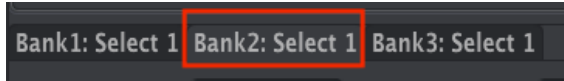
8.8.3. Fader RPN / NRPN

フェーダーはRPN (レジスタードパラメーターナンバー) とNRPN (ノンレジスタードパラメーターナンバー) の送信も可能です。この2種類のナンバーは様々なメーカーの機器で独自に設定している外部コントロールのためのパラメーター番号です。RPN/NRPNの対応などの詳細は、ご使用の機器の説明書等をご参照ください。

- **Option** : RPN/NRPNを送信するかどうかを設定します。
- **Channel** : 選択したフェーダーから送信するMIDIチャンネルを1~16の範囲で選択します。"User"に設定することもでき、この場合RPN/NRPNはMIDI Chボタン [p.67]で設定したMIDIチャンネルで送信されます。
- **RPN / NRPN LSB** : 選択したフェーダーから送信されるRPN/NRPNの値の下位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。
- **RPN / NRPN MSB** : 選択したフェーダーから送信されるRPN/NRPNの上位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。

8.9. Selectボタンのカスタマイズ

Selectボタンには3つのバンクがあり、Bankタブで切り替えます :



SelectボタンBank 2を選択した状態

Selectボタンの動作モードは4種類あります。各モードには次のようなパラメーターセットがあります :

8.9.1. SelectボタンOff

Selectボタンの動作をオフにします。Selectボタンを必要としないプリセットで誤って操作することを防ぎたい場合に便利です。

8.9.2. Selectボタンスイッチコントロール

- **Option** : GateまたはToggleを選択します。Gateはボタンを押している間だけオンになり、Toggleはボタンを一度押すとオンまたはオフになり、もう一度押すとオフまたはオンになります。
- **Channel** : 選択したボタンのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.67]で設定したチャンネルになります。

- **CC Number** : 選択したボタンから送信するMIDI CC#を0~127の中から選択します。ドロップダウンメニューを開くと各CC#に対応した機能名が表示されます。
- **Off Value** : ボタンを放した状態の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。
- **On Value** : ボタンを押した状態の値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。

8.9.3. SelectボタンRPN / NRPN

SelectボタンはRPN (レジスタードパラメーターナンバー) とNRPN (ノンレジスタードパラメーターナンバー) の送信も可能です。この2種類のナンバーは様々なメーカーの機器で独自に設定している外部コントロールのためのパラメーター番号です。RPN/NRPNの対応などの詳細は、ご使用の機器の説明書等をご参照ください。

- **Option** : RPN/NRPNを送信するかどうかを設定します。
- **Channel** : 選択したボタンのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合RPN/NRPNはMIDI Chボタン [p.67]で設定したMIDIチャンネルで送信されます。
- **RPN / NRPN LSB** : ボタンから送信されるRPN/NRPNの値の下位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。
- **RPN / NRPN MSB** : ボタンから送信されるRPN/NRPNの値の上位バイトを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。

8.9.4. Selectボタンプログラムチェンジ

- **Channel** : 選択したボタンのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合はMIDI Chボタン [p.67]で設定したチャンネルになります。
- **Program Number** : ボタンを押した時に送信されるMIDIプログラムナンバーを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。
- **Bank LSB** : ボタンを押した時に送信されるバンクセレクトの下位バイト (MIDI CC#32) を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。Bank LSBに対応していない機器もありますので、コントロールしたいハードウェアやソフトウェアの説明書等でご確認ください。
- **Bank MSB** : ボタンを押した時に送信されるバンクセレクトの上位バイト (MIDI CC#0) を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。Bank MSBに対応していない機器もありますので、コントロールしたいハードウェアやソフトウェアの説明書等でご確認ください。

8.10. キーボードのカスタマイズ

KeyLab MkIIのキーボードもMIDI Control Centerでカスタマイズできます。

i Part 2関連とスプリットポイントの各種設定はスプリットモードがオンの場合に表示されます。また、Part 2や両方のパートに関連したパラメーターはKeyLab MkIIのスプリットモードがオフの場合は無効となります。

- **Part 1 Channel** : Part 1のMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合Part 1は**MIDI Chボタン [p.67]**で設定したチャンネルになります。
- **Part 1 Semi** : Part 1のトランスポーズを設定します。-11~+11の半音単位で設定できます。
- **Part 1 Octave** : Part 1のオクターブシフトを-3~+3の範囲で設定します。
- **Velocity Curve** : ベロシティカーブを次の3種類から選択します：リニア (**Lin**)、ログ (**Log**)、エクスポネンシャル (**Exp**)。この設定はPart 1とPart 2の両方にかかります。
- **Split Mode** : スプリットモードのオン/オフ切替です。オフの場合、Part 1のみが使用でき、このリストの以下のパラメーターは表示されません。オンの場合、Part 2も使用でき、このリストの以下のパラメーターが表示されます。Part 1はスプリットポイントの右側 (高音側)、Part 2は左側 (低音側) になります。
- **Split Point** : Part 1とPart 2のスプリットポイントを設定します。
- **Part 2 Channel** : Part 2のMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合Part 2は**MIDI Chボタン [p.67]**で設定したチャンネルになります。
- **Part 2 Semi** : Part 2のトランスポーズを設定します。-11~+11の半音単位で設定できます。
- **Part 2 Octave** : Part 2のオクターブシフトを-3~+3の範囲で設定します。
- **Oct buttons assign** : Octaveボタンを押した時にPart 1かPart 2、または両方のオクターブが変化するかを設定します。
- **Trans button assign** : トランスポーズをした時にPart 1かPart 2、または両方がトランスポーズするかを設定します。
- **Chord button assign** : Chordボタンで設定したコードをPart 1かPart 2、または両方のパートで演奏するかを設定します。ここでの設定はコードトランスポーズモードを使用した時にパッドが有効になるパート選択も兼ねています。
- **Aftertouch assign** : アフタータッチがかかるパート (Part 1かPart 2、または両方) を選択します。

i キーボードのアフタータッチ反応カーブはDevice Settingsタブで設定します。この設定はグローバルパラメーターですので、テンプレートごとに設定することはできません。

8.11. CVインのカスタマイズ

リアパネルのCVイン端子の設定は、本機のフロントパネルでの操作またはMIDI Control Centerで変更でき、次のようなパラメーターがあります：

8.11.1. Mod CV max voltage

入力するCVの上限電圧を1~10Vの範囲で設定します。メーカーや機器によってCV電圧の仕様が異なりますので、お使いになる機器に合わせて設定してください。

8.11.2. Mod CV Mode menu

モードメニューには2つのモードがあり、それぞれに独自のパラメーターセットがあります：

8.11.2.1. Mod CV Off

CVイン端子をオフにします。CVインを必要としないユーザープリセットで誤操作を防ぎたい場合に便利です。

8.11.2.2. Mod CV Control

- **Channel**：CVインからの信号をMIDIメッセージに変換して送信する際のMIDIチャンネルを1~16の範囲で選択します。"User"も選択でき、この場合はCVインからの信号はMIDI **Chポタン** [p.67]で設定したチャンネルで送信されます。
- **CC Number**：CVインからの信号を0~127のMIDI CC#に変換します。ドロップダウンメニューを開くとCC#に対応した機能名が表示されます。
- **Min Value & Max Value**：CVインからの信号をMIDI CC#に変換した場合の最低値と最高値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。

8.12. ペダルのカスタマイズ



! : 5つのペダルインプットのパラメーターはすべて同じですので、このセクションでまとめてご紹介します。

ペダルインプットには4つのモードがあり、それぞれに独自のパラメーターセットがあります：


8.12.1. Pedal Off

選択したペダル端子をオフにします。ペダルを必要としないユーザープリセットで誤操作を防ぎたい場合に便利です。

8.12.2. Pedal Control

このモードでは各ペダルの動作を設定できます。


- **Channel**：選択したペダルのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合そのペダルはMIDI Chボタン [p.67]で設定したチャンネルになります。
- **CC Number**：選択したペダルで使用するMIDI CC#を0~127の中から選択します。ドロップダウンメニューを開くとCC#に対応した機能名が表示されます。
- **Min Value & Max Value**：選択したペダルから送信するMIDI CCの最低値と最高値を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。

 注：Controlモードを使用する場合、Device Settingsタブ [p.79]にあるContinuous Pedal Calibration [p.81]パラメーターでペダルの可動範囲のキャリブレーションができます。

8.12.3. Pedalスイッチコントロール

ペダル端子にフットスイッチやスイッチタイプのペダルを接続して使用する場合の設定パラメーターです。

- **Option**：GateまたはToggleを選択します。Gateはフットスイッチやペダルを踏んでいる間だけオンになり、Toggleはフットスイッチやペダルを一度踏むとオンまたはオフになり、もう一度踏むとオフまたはオンになります。
- **Channel**：選択したフットスイッチやペダルのMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合そのフットスイッチやペダルはMIDI Chボタン [p.67]で設定したチャンネルになります。
- **CC Number**：選択したフットスイッチやペダルで使用するMIDI CC#を0~127の中から選択します。ドロップダウンメニューを開くとCC#に対応した機能名が表示されます。例えば、サステインペダルとして使用する場合はCC#64に設定します。
- **Off Value**：フットスイッチやペダルを放した時に送信されるCC#の値を設定します。外部機器やプラグインによってはこの値を0にする必要があるものもあります。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに数値を入力することで設定できます。
- **On Value**：フットスイッチやペダルを踏んだ時に送信されるCC#の値を設定します。

 注：5つのペダル端子はいずれもKeyLab MkIIの電源投入時に接続したフットスイッチやペダルの極性を自動検出します。ペダル端子のモードをSwitchedにしておくと、より正確に検出します。このモード設定はグローバルパラメーターではありませんので、ユーザープリセットごとに別々の設定をしたいときは、各ユーザープリセットで設定して保存する必要があります。

8.12.4. ペダルプログラムチェンジ

この機能を使用するとペダル端子に接続したペダル類でMIDIプログラムチェンジを送信できます。

- **Channel** : 選択したペダル類のMIDIチャンネルを1~16の範囲で設定します。"User"に設定することもでき、この場合そのペダル類はMIDI Chボタン [p.67] で設定したチャンネルになります。
- **Program Number** : ペダル類を操作した時に送信されるMIDIプログラムナンバーを設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。
- **Bank LSB** : ペダル類を操作した時に送信するバンクセレクトの下位バイト (MIDI CC#32) を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。接続する機器等によってはBank LSBに対応していない機種もありますので、接続する機器等の説明書でご確認ください。
- **Bank MSB** : ペダル類を操作した時に送信するバンクセレクトの上位バイト (MIDI CC#0) を設定します。画面上のグラフィックをクリック&ドラッグするか、フィールドに0~127の数値を入力することで設定できます。接続する機器等によってはBank MSBに対応していない機種もありますので、接続する機器等の説明書でご確認ください。

8.13. Pitchアウトのカスタマイズ

MIDI Control Centerの画面に表示されているリアパネルのCVアウト端子をクリックすると、次の設定をカスタマイズできます。

- **Pitch CV Output** : 1V/OctとHz/Vの2種類の規格があります。ここでの選択に応じて次の2つのパラメータのどちらかが有効になります。接続するハードウェア機器の仕様に合わせてこのパラメーターを設定してください。
- **0V MIDI note (Volts per Octave selected)** : Pitch CV Outputパラメーターで1V/Octを選択した場合に有効になるパラメーターです。デフォルト設定はC-2 (MIDIノートナンバー=0) ですが、C-2~G8の範囲で自由に設定できます。
- **1V MIDI note (Hertz per Volt selected)** : Pitch CV OutputパラメーターでHz/Vを選択した場合に有効になるパラメーターです。デフォルト設定はC0 (MIDIノートナンバー=24) ですが、C-2~G8の範囲で自由に設定できます。
- **Note Priority** : Pitchアウト端子はモノフォニックですが、KeyLab MkIIのキーボードはポリフォニックですので、複数の鍵盤を同時に弾いた場合にどちらの音程をCVとして出力するかを、このパラメーターで設定します。**Low**は複数の鍵盤を同時に弾いた時の最低音が優先されます (低音優先)。**High**は同様の場合に最高音が優先されます (高音優先)。**Last**は同様の場合に最後に弾いた音が優先されます (後着優先)。
- **Pitch Bend Range (Semi-tones)** : KeyLab MkIIのピッチホイールを操作した時のCVの変化量を1半音~24半音の範囲で設定します。
- **Pitch Assignment** : CVを出力するパートをPart 1またはPart 2のどちらかに選択します。

8.14. Gateアウトのカスタマイズ

Gateアウト端子は本機のキーボード演奏で発生するノートオン/オフ情報をトリガー信号として出力します。この端子には**S-Trig**、**V-Trig 5V**、**V-Trig 12V**の3種類の動作モードがあります。接続するハードウェア機器の説明書等でご確認ください。

8.15. Mod 1 / Mod 2アウトのカスタマイズ

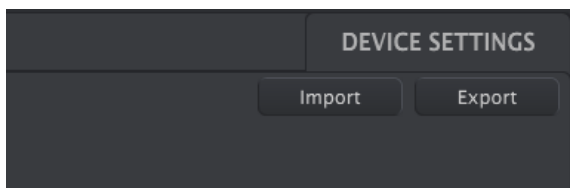


♪: Mod 1もMod 2も設定パラメーターは同じですので、ここでまとめてご紹介します。

この2つのModアウト端子でモジュラーシンセサイザーのパラメーターを連続的にコントロールすることができます。

- **Mod CV Source** : Modアウトから出力するCVのソースを設定します。デフォルト設定はキーボードベロシティですが、KeyLab MkIIから送信できる連続的なコントロールに変更できます。Selectボタンも選択できますが、その場合はボタンを押した時に次のパラメーターで設定した最高値が出力され、ボタンを放すと最低値が出力されます。
- **Mod CV max voltage** : 選択したソースから出力されるCVの最高値を1~10Vの範囲で設定します。接続する機器の説明書等で仕様をご確認の上、設定してください。

8.16. Device Settingsタブ



MIDI Control Centerの画面右上には**Device Settings**というタブがあります。このタブにはKeyLab MkIIのグローバル設定のためのパラメーターが入っています。このタブには複数のセクションがあり、それぞれにいくつかのパラメーターがあります。ここでは、その各パラメーターについてご紹介します。

8.16.1. グローバルパラメーターセクション

- **Low Power Mode** : このパラメーターがオンの場合、KeyLab MkIIの電源投入時のLED電飾シーケンスとヴェガスモードがオフになります。
- **Vegas Mode** : KeyLab MkIIの操作を何もしましなまま約5分が経過すると、見て楽しいカラフルなライトショーがスタートします。ライトショーが不要な場合はこのパラメーターをオフに設定します。
- **Octave Button Blink** : オンの場合、トランスポーズを使用しているときにOctaveボタンが白く点滅します。オフにセットすると、トランスポーズを使用しているときにOctaveボタンが白で点灯します。
- **User Fader Mode** : KeyLab MkIIのUserモードでのフェーダーの反応方法を次の2種類から選択します：
 - **Pickup** : フェーダーの位置が前回最後に送信した値と同じになるまでは、フェーダーを動かしても何も変化しません。この設定は3バンク分のフェーダーを使う場合に重要で、例えばバンク1からバンク2に切り替えていくつかのフェーダーを操作し、再びバンク1に戻った時にバンク1でコントロールしているパラメーターの値を急激に変化させたくない場合に便利です。
 - **Jump** : フェーダーを動かすと、それ以前の状態に関係なくパラメーターの値が瞬時にフェーダーの位置と一致します。

8.16.2. DAWセクション

- **DAW Map** : KeyLab MkIIで使用されるDAWプリセットを選択します。DAWプリセットのリストは[こちら \[p.34\]](#)にあります。
- **DAW Fader Mode** : DAWコントロール時のKeyLab MkIIのフェーダーの反応方法を次の2種類から選択します：
 - **Pickup** : KeyLab MkIIのフェーダーの位置がDAWのフェーダーの位置になるまでは何も変化しません。
 - **Jump** : KeyLab MkIIのフェーダーを動かした瞬間にDAWのフェーダーがその位置にジャンプします。
- **DAW Buttons** : UserモードでのDAW Controlボタンの機能を設定します：
 - **DAW** : ボタンからはソロ、ミュート、録音モードなどのDAWチャンネルコマンドを送信し、別の機能に変更することはできません。詳しくは、[DAWプリセットコマンドチャート \[p.65\]](#)をご覧ください。
 - **User** : ボタンにノートナンバーやオン/オフ動作のコントロールチェンジ、プログラムチェンジのアサインができるほか、Userプリセットの選択ができます。
- **Track Control Buttons** : Track Controlボタンの機能を設定します：
 - **Single Track** : Track Controlボタンにソロやミュートなどの機能がアサインされ、選択したトラックの操作に使用できます。
 - **Multi Track** : Track Controlボタンでソロやミュートなどの機能を選択し、Selectボタンを押すとそのボタンに対応したトラックに対して選択した機能が適用されます。この機能は、複数トラックの操作を同時に行いたいときに便利です。

8.16.3. Padsセクション

- **Pads Velocity Curve** : パッドのベロシティカーブをリニア (Lin)、ログ (Log)、エクスポネンシャル (Exp)、固定 (Fix) の4種類から選択します。
- **Pads Aftertouch Curve** : パッドのアフタータッチカーブをリニア (Lin)、ログ (Log)、エクスポネンシャル (Exp) の3種類から選択します。
- **Pads Aftertouch Min** : パッドのアフタータッチの最低値を設定します。
- **Pads Aftertouch Max** : パッドのアフタータッチの最高値を設定します。
- **Pads backlight** : パッドを常時点灯させる (Always On) か、押したときのみ点灯させる (Light on Trig) かを選択します。

8.16.4. Keysセクション

- **Keys Aftertouch Curve** : キーボードのアフタータッチカーブをリニア (Lin)、ログ (Log)、エクスポネンシャル (Exp) の3種類から選択します。
- **Keys Aftertouch Min** : キーボードのアフタータッチの最低値を設定します。
- **Keys Aftertouch Max** : キーボードのアフタータッチの最高値を設定します。

8.16.5. MIDI Thruセクション

MIDI端子とUSBポートでの信号の流れ方を双方向にするか、一方通行にするか、あるいはオフにするかを設定します。

- **MIDI IN to USB** : このパラメーターがオンの場合、MIDIインに入った信号がUSBポート経由でDAWやその他のUSB機器へスルーされます。オフの場合はスルーしません。
- **USB to MIDI Out** : このパラメーターがオンの場合、USBポートに入った信号がMIDIアウトにスルーされます。オフの場合はスルーしません。

8.16.6. コンティニューアスペダル・キャリブレーション



♪: 5つのペダル端子のパラメーターはすべて同じですので、まとめてご紹介します。

ペダル端子の動作モードをControl (反対の設定はSwitched Control) に設定した場合、ペダルの可動範囲に合わせてペダル端子の動作を設定できます。

- **Pedal Min** : ペダルを完全に戻した位置での値を設定します。
- **Pedal Max** : ペダルを完全に踏み込んだ位置での値を設定します。

8.17. ImportとExportボタン

KeyLab MkIIのすべてのデバイス設定 (Device Settings) を1つのファイルにまとめて書き出したり (**Export**)、そうしたファイルを読み込むこと (**Import**) ができます。書き出したファイルには、`.keylabMkII_ds`の拡張子が付きます。

8.18. ファームウェアアップデート

MCCの画面左上のコントローラー名のすぐ下に、ファームウェアバージョンを表示するフィールドがあります。ここでは、MCCと接続しているKeyLab MkIIのファームウェアバージョンが表示されます。新しいバージョンがある場合は、その下にメッセージが表示されます。ファームウェアアップデートをするには、現在のファームウェアバージョンが表示されているフィールドをクリックするとアップデートが始まりますので、表示される指示に従って操作をしてください。



♪: 本マニュアルに記載の機能がお使いのKeyLab MkIIで使用できない場合は、ファームウェアを最新バージョンにアップデートする必要がある可能性があります。ファームウェアをアップデートすると、使用できなかった機能が使用できるようになります。

9. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンス料（お客様が支払ったアートリア製品代金の一部）により、アートリア社はライセンスサーとしてお客様（被ライセンスサー）にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社（以下アートリア）に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアの使用はレジストレーション完了後のみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品（すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ）を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとしてOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート（ホットライン、ウェブでのフォーラムなど）の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用（氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど）に同意するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 著作権 ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間が30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行ったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害（業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む）について、アートリアが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があります、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。

10. 規制関連情報

FCC規制情報 (USA)

重要な注意：本製品を改造しないでください。

本製品は、本マニュアルに記載の条件を満たした場合にのみ、FCC規則に準拠します。本製品の使用に際して、FCC規則に反する改造または変更を本製品に行うことは、Arturia社および輸入代理店は一切承認いたしません。

重要：本製品をアクセサリ等関連製品やその他の機器に接続する場合は、高品質のシールドケーブルをご使用ください。また、本製品にケーブル類が付属している場合は、その用途に於いて必ずそれをご使用ください。本製品の設置は、ユーザー・マニュアル等に記載されている内容に従って行ってください。それ以外の方法等で本製品をアメリカ合衆国内で使用する場合は、使用者の権限が無効になる場合があります。

注意：本製品は、FCC規則第15章に従ってクラスBデジタル機器の規制値に適合していることが試験により確認されています。この各種規制値は、本製品を一般家庭で使用する際に生じる有害な障害に対して合理的な保護となるよう策定されています。本製品は、無線周波数帯域のエネルギーを発生し、使用し、放射することがあります。また、本製品のユーザーズ・マニュアルに従わずに本製品を設置した場合は、他の電子機器に有害な干渉を及ぼす原因となります場合があります。本製品の電源をオンにしたりオフにしたりすることで、本製品がそのような有害な干渉を及ぼす原因であると確認された場合は、次の対処法を行ってください：

- 本製品または干渉の影響を受けている機器の設置位置を変更する。
- 本製品と干渉の影響を受けている機器のコンセントを別の系統に分ける、またはACラインフィルタを使用する。
- ラジオやテレビが干渉を受けている場合は、それらの位置やアンテナの向きを変更する。アンテナの引込み線が300Ωのリボンフィーダー線だった場合は、引込み線を同軸ケーブルに変更する。
- これらの対処法が効果的でなかった場合は、本製品を購入された販売店やメーカーまたは輸入代理店にご相談ください。

なお、上記の記載内容は、アメリカ合衆国にディストリビュートされた製品にのみ適用されます。

カナダ

注意：本製品はカナダ国内の干渉機器基準で要求されるすべての規制に適合したクラスBデジタル機器です。

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

ヨーロッパ



本製品は、指令89/336/EECの要求基準に適合しています。

本製品が静電気放電の影響により適切に動作しない場合は、本製品の電源を入れ直してください。